

手拭	二	三	三	三
夏衣袴	四	四	四	四
袴	三	三	三	三
袴	三	三	三	三
皮	一	一	一	一

ノ項ヲ削ル

附則

本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕昭和十九年法律第七號所得稅法外二十九法律中改正法律ノ一部施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十九年三月三十一日

内閣總理大臣 東條 英機  
内務大臣 安藤紀三郎  
大藏大臣 石渡莊太郎

勅令第百八十一號(官報號外)  
昭和十九年法律第七號中第十二條乃至第十五條及第二十條乃至第二十二條ノ規定並ニ

ニ改メ事業服ノ項及陸戰事業服

第二十三條中臨時租稅措置法第二十一條ノ二及第二十二條ノ改正規定ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕所得稅法施行規則外二十勅令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十九年三月三十一日

内閣總理大臣 東條 英機  
大東亞大臣 青木 一男  
大藏大臣 石渡莊太郎

勅令第百八十二號(官報號外)  
第一條 所得稅法施行規則中左ノ通改

正ス  
第四條ノ二 所得稅法施行地ニ於テ法人、常時三人以上ノ使用人ヲ使用スル個人ニシテ稅務署長ノ指定シタルモノハ勞務供給業者、作業請負業者其ノ他常時五人以上ノ勞務者ヲ使用スル個人ニシテ稅務署長ノ指定シタルモノヨリ支拂ヲ受クル左ニ掲グル報酬又ハ料金ハ所得稅法第十條ニ規定スル丙種ノ事業所得トス但シ甲種ノ事業所得又ハ勤勞所得ニ屬スルモノヲ除ク

一 大工、左官、石工、密職、屋根職、鐵筋工、鐵打工、煉瓦工、鍛冶工、隧道工、建築指物工、土工、仲仕、自動車運轉手、荷扱運搬夫、荷牛馬車、船夫、車夫、筆工、速記士其ノ他此等ノ勞務者ニ準ズル者ノ受クル報酬又ハ料金  
二 外交員、集金人其ノ他此等ノ勞務者ニ準ズル者ノ受クル報酬又ハ料金  
稅務署長前項ノ指定ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ指定ヲ受ケタル者ニ通知スベシ其ノ指定ヲ取消シタルトキ亦同ジ

第一項ノ指定及其ノ取添ハ常時三人以上ノ使用人ヲ使用スル個人ニ關スルモノニ在リテハ前項ノ通知ヲ爲シタル年ノ翌年一月一日ヨリ、其ノ他ノ個人ニ關スルモノニ在リテハ前項ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ起算シ五日ヲ經過シタル時ヨリ其ノ效力ヲ發生ス

第四條ノ三 所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル原稿、插畫、作曲及音聲吹込ノ料金、放送謝金、著作權ノ使用料及講演料並ニ此等ノ性質ヲ有スル報酬又ハ料金ハ所得稅法第十條ニ規定スル丙種ノ事業所得トス

前條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス  
第五條第一項中「常時十人以上ノ使用人ヲ使用シ稅務署長ノ指定シタル個人」ヲ「第四條ノ二第一項ノ規定ニ依リ稅務署長ノ指定シタル常時三人以上ノ使用人ヲ使用スル個人」ニ改メ同條第二項及第三項ヲ削ル

第六條中「第一項」ヲ削ル  
第七條及第八條 削除  
第十二條ノ三 前年一月一日ヨリ其ノ年分所得金額ノ決定前ニ所得稅法施行地

ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スルニ至リタル者ノ不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種及乙種ノ事業所得並ニ乙種ノ勤勞所得ノ計算ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル但シ所得稅法施行地ニ在ル不動産及事業ノ所得並ニ法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 前年一月一日ヨリ前年十二月三十一日迄ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スルニ至リタル者ノ所得ニ付テハ住所又ハ一年以上居所ヲ有スルニ至リタル日ヨリ前年十二月三十一日迄ノ所得ヲ年額ニ換算シタル金額ニ依リ  
二 其ノ年一月一日ヨリ其ノ年分所得金額ノ決定前ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スルニ至リタル者ノ所得ニ付テハ住所又ハ一年以上居所ヲ有スルニ至リタル日ヨリ前年十二月三十一日迄ノ所得ヲ年額ニ換算シタル金額ニ依リ算出シタル金額ニ依ル

前項ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有シタル者ガ住所又ハ居所ヲ移轉シタル爲所得稅法施行地ニ住所又ハ一年

以上居所ヲ有スルニ至リタル場合ニハ之ヲ適用セズ  
第十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ賞與以外ノ給與ガ前項ノ規定ニ依リ控除額ニ達セザルトキハ其ノ不足額(第十四條ノ規定ニ依リ控除セラレタル場合ニ於テハ其ノ金額ヲ除ク)ヲ其ノ年中ニ於テ同一ノ支拂者ヨリ受クル給與(第十六條第一號乃至第五號ニ規定スル給與ヲ除ク)ヨリ控除ス

第十四條第二項中「其ノ差額ニ對スル分類所得稅ニ付テハ」ヲ削リ同項第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 實際ノ不足額ガ豫算ニ依リ算出シタル不足額ヲ超過スルトキハ其ノ差額ヲ翌年以後ノ同一ノ支拂者ヨリ受クル給與(第十六條第一號乃至第五號ニ規定スル給與ヲ除ク)ヨリ控除ス但シ同一ノ支拂者ヨリ給與ヲ受ケザルニ至リタルトキハ本人ノ請求ニ依リ過納ト爲リタル分類所得稅ニ相當スル金額ヲ還付ス  
同條第三項ヲ削ル

第十八條 第四條ノ第三項ニ規定スル丙種ノ事業所得ニ付テハ所得稅法第十七條第二項但書ノ規定ニ依リ其ノ所得ヨリ四百圓ヲ控除ス

第十九條及第二十條 削除  
第二十一條中「百分ノ十五ハ之ヲ百分ノ十ヲ百分ノ二十八之ヲ百分ノ十五」ニ改ム

第二十一條ノ二 元本五千圓ヲ超エザル第三十三條ニ規定スル合同運用信託ノ利益ニ付テハ所得稅法第二十一條第一項中配當利子所得甲種第三號ニ規定スル稅率百分ノ二十八之ヲ百分ノ五トス

第二十二條 所得稅法第二十一條第四項ノ元本額ハ支拂ヲ受クベキ預金ノ利子金額又ハ合同運用信託ノ利益金額ヲ年額ニ換算シタルモノヲ當該預金又ハ合同運用信託ノ年利率若ハ年利率ニ相當スル利率又ハ收益交付率ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

同一人ガ同一ノ支拂者ニ對シ二口以上ノ預金又ハ合同運用信託ヲ有スルトキハ所得稅法第二十一條第四項ノ元本額ハ此等ノ預金又ハ合同運用信託ヲ合算シタルモノニ依リ之ヲ計算ス

第二十四條ニ左ノ一項ヲ加フ  
第十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付テハ準用ス  
第二十五條第二項中「及第三項」ヲ削ル  
第二十九條 削除  
第三十一條第四項中「第二十五條」ヲ「第十三條第二項」第十四條第二項ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

生命保險料ニ付第三十二條第一項ノ規定ニ依リ控除ヲ爲ストキハ第一項ノ規定ニ依リ控除ハ之ヲ爲サズ  
第三十三條中「十分ノ四」ヲ「十分ノ三」ニ改ム

第三十四條第二項中「及第六號ノ所得」ヲ「又ハ剩餘金ノ分配」ニ改ム

第三十五條 第十二條ノ三ノ規定ハ前年一月一日ヨリ其ノ年分所得金額ノ決定前ニ所得稅法施行地ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スルニ至リタル者ノ總所得中所得稅法第三十條第一項第一號乃至第四號及第七號乃至第九號ノ所得所得稅法第六條第一項ノ規定ニ依リ綜合所得稅ヲ賦課スルモノヲ除クノ計算ニ付テハ準用ス

第三十六條第一項中「事業所得」ヲ「甲種若ハ乙種ノ事業所得」ニ改メ「詳記シ」ノ下ニ「毎年一月三十一日迄」ヲ加ヘ同項ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ其ノ年一月一日ヨリ其ノ年分所得金額ノ決定前ニ所得稅法施行地ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スルニ至リタル者ハ住所又ハ一年以上居所ヲ有スルニ至リタル日ヨリ一月以内ニ申告スベシ

第三十六條ノ二 其ノ年一月一日ヨリ二月末日迄ニ法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ヲ受ケ新ニ納稅義務ヲ有スルニ至リタル者ハ三月十五日迄ニ所轄稅務署ニ申告スベシ  
前條(第一項但書ヲ除ク)ノ規定ハ前項ノ場合ニ付テハ準用ス

乙種ノ配當利子所得又ハ個人ノ總所得ニ付前條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲スベキ者ガ其ノ年一月一日ヨリ二月末日迄ニ法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ヲ受ケタルトキハ當該所得ニ付三月十五日迄ニ所轄稅務署ニ申告スベシ  
前條第一項(但書ヲ除ク)及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付テハ準用ス

第三十七條第一項中「職業、申請者トノ續柄、不具癡疾ノ事實及控除ヲ受クベキ金額」ヲ「申請者トノ續柄及不具癡疾ノ事實」ニ改ム  
第三十六條ニ改ム  
第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ申請書ニハ前項ニ規定スル事項ノ外尙其ノ年自己又ハ同居ノ戸主及家族ノ甲種ノ勤勞所得ニ對スル分類所得稅ニ付所得稅法第二十四條ノ規定ニ依リ控除ヲ受クル他ノ扶養家族アル場合ニ於テハ其ノ氏名及申請者トノ續柄ヲ併セ記載スベシ  
同條第三項中「第四項」ヲ「第三項」ニ改ム

第三十九條第一項中「職業」ヲ削リ同條第二項第一號ヲ削除シ同項第三號中「事業所得」ヲ「甲種若ハ乙種ノ事業所得」ニ改ム  
第四十一條ニ左ノ一項ヲ加フ  
第三十七條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付テハ準用ス

第四十三條第一項中「第二十六條」ノ下ニ「又ハ第三十六條ノ二第一項」ヲ加フ  
第四十六條中「第十九條」ヲ「第十七條第三項」ニ改ム  
第二十一條第五項、第二十五條

第四項ヲ「第二十一條第七項、第二十五條第三項」ニ改ム  
第八十一條中「所得稅法第一條ノ規定ニ該當セザル者」受クル甲種ノ配當利子所得、甲種ノ勤勞所得又ハ甲種ノ退職所得ニ付テハ尙其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ各人別明細書ヲ添付スベシ」ヲ削リ「甲種ノ配當利子所得」ノ下ニ「丙種ノ事業所得」ヲ加フ

第七章中第八十一條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ  
第八十一條ノ二 所得稅法第七十二條第二項ノ規定ニ依リ控除スベキ金額ヲ定ムルコト左ノ如シ  
一 第四條ノ二第一項第一號ニ規定スル報酬又ハ料金は付テハ一日三圓ノ割合ニ依リ報酬又ハ料金を支給期間ニ應ジテ算出シタル金額  
二 第四條ノ二第二項第二號ニ規定スル報酬又ハ料金は付テハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ノ十分ノ三  
三 第四條ノ三第一項ニ規定スル報酬又ハ料金は付テハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ノ十分ノ二

第八十一條ノ三 所得稅法第七十二條ノ二ノ規定ニ依リ超過額ノ還付ヲ受ケントスル者ハ翌年一月三十一日迄ニ其ノ申請書ヲ住居地ノ所轄稅務署ニ提出スベシ  
第八十一條ノ四 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、甲種及乙種ノ事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得、乙種ノ退職所得及清算取引所得ニ對スル分類所得稅並ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得稅ノ年額ガ六十圓ニ滿タザルトキハ所得稅法第七十三條第一項但書ノ規定ニ依リ之ヲ二分シ第二期及第四期ニ於テ徵收ス  
第八十二條中「事業所得」ヲ「甲種若ハ乙種ノ事業所得」ニ改ム  
第八十三條ノ二 第十二條ノ三第一項又ハ第三十五條ノ規定ニ依リ計算シタル所得ニ付所得稅ヲ賦課ヲ受ケタル者其ノ年中ニ所得稅法施行地ニ住所及居所ヲ有セザルニ至ルトキハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依リ所得稅ヲ免除ス  
一 其ノ年一月一日ヨリ其ノ年分所得金額ノ決定前ニ住所及居所ヲ有セザルニ至リタル者ニ付テハ其ノ年分所

得税中第十二條ノ三第一項又ハ第三十五條ノ規定ニ依リ計算シタル所得ニ對スル税額並ニ住所及居所ヲ有セザルニ至リタル後ニ到來スル納期(住所及居所ヲ有セザルニ至リタル日ノ屬スル納期ヲ含ム)ニ於テ納付スベキ前年分ノ所得税中當該所得ニ對スル税額ヲ免除ス

二 其ノ年分所得金額ノ決定後其ノ年十二月三十一日迄ニ住所及居所ヲ有セザルニ至リタル者ニ付テハ住所及居所ヲ有セザルニ至リタル後ニ到來スル納期(住所及居所ヲ有セザルニ至リタル日ノ屬スル納期ヲ含ム)ニ於テ納付スベキ所得税中第十二條ノ三第一項又ハ第三十五條ノ規定ニ依リ計算シタル所得ニ對スル税額ヲ免除ス

第八十三條ノ三 前條ノ規定ニ依リ所得税ノ免除ヲ受ケントスル者ハ住所及居所ヲ有セザルニ至リタル日ノ前日迄ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第八十五條中「第七十五條」ノ下ニ「又ハ第七十六條ノ二」ヲ加フ

第九十一條中「十人」ヲ「三人」ニ改メ、使用スルモノ「ノ下ニ」及第四條ノ二第一項ニ規定スル報酬又ハ料金ノ支拂ヲ爲ス個人ニシテ常時五人以上ノ勞務者ヲ使用スルモノ「ヲ、現在ニ於ケル使用人」ノ下ニ「又ハ勞務者」ヲ加フ

第九十一條ノ二 第四條ノ二第一項ニ規定スル勞務供給業者、作業請負業者、其ノ他常時五人以上ノ勞務者ヲ使用スル個人ニシテ稅務署長ノ指定シタルモ、住居地ノ所轄稅務署ノ管轄區域外ニ於テ事業ヲ開始シ内種ノ事業所得ニ屬スル報酬又ハ料金ノ支拂ヲ爲サントスルトキハ其ノ事業ノ開始前ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ事業開始地ノ所轄稅務署ニ提出スベシ

一 事業ノ開始地

二 供給又ハ使用スベキ勞務者豫定數

三 第四條ノ二第一項ノ規定ニ依リ指定ヲ爲シタル稅務署名

四 事業開始及終了豫定年月日

第九十二條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

四 第四條ノ二第一項及第四條ノ三第一項ニ規定スル報酬又ハ料金ニ付テハ毎年一月末日限

第九十三條第一號中、所得稅法第十六條第二十四條又ハ第二十六條ノ二ノ規定ニ依リ控除シタル金額並ニ分類所得稅ヲ徵收シタルモノニ在リテハ該稅額ヲ削リ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

四 第四條ノ二第一項及第四條ノ三第一項ニ規定スル報酬又ハ料金ニ付テハ前年中ノ支拂金額及第八十一條ノ規定ニ依リ分類所得稅ヲ徵收シタルモノニ在リテハ該稅額

第九十六條第一項中「甲種ノ勤勞所得」ノ上ニ「丙種ノ事業所得又ハ」ヲ加ヘ「十錢」ヲ「二十錢」ニ改ム

第九十七條第一項中「五厘」ヲ「一錢」ニ、「三錢」ヲ「五錢」ニ改ム

第九十九條中「事業所得」ヲ「甲種若ハ乙種ノ事業所得」ニ改ム

第二條 法人稅法施行規則中左ノ通改正ス

第三條中「之ヲ切捨ツ」ヲ「之ヲ一月トス」ニ改ム

第四條ノ二 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人(合併法人ト稱ス)以下本條ニ於テ同ジ)ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ積立金額ヲ繼承

シタルトキハ當該積立金額ニ合併法人ノ合併ノ日ノ屬スル事業年度中合併ノ日以後ノ月數ヲ乗ジタルモノヲ合併法人ノ合併ノ日ノ屬スル事業年度ノ月數ヲ以テ除シタル金額ヲ合併法人ノ法人稅法第七條第一項ニ規定スル各事業年度開始ノ時ニ於ケル積立金額ニ加算ス

第三條ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付テハ準用ス

第十條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於ケル法人稅ヲ課スベキ所得金額ハ法人稅法第十三條第一項ノ規定ニ依リ控除ヲ爲サザル金額ニ依リ

第十八條中「若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日」ヲ、「合併ノ日又ハ清算著手ノ日ヨリ三十日」ニ改ム

第二十條中「十四日」ヲ「三十日」ニ改ム

第三條 特別法人稅法施行規則中左ノ通改正ス

第三條 資本的支出ニ充ツル爲交付セラレタル國庫補助金ノ收入ニシテ資本的支出ニ充テタル部分ノ金額ハ之ヲ特別ノ法人ノ剩餘金ヨリ控除ス

前項ノ場合ニ於テ特別ノ法人ガ其ノ資本的支出ニ充テタル部分ノ金額ヲ資産トシテ計算シタルトキハ特別ノ法人ノ剩餘金ニ對スル特別法人稅ノ課稅ニ關シテハ之ヲ資産トシテ計算セザリシモノト看做ス

第一項ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケントスル特別ノ法人ハ國庫補助金ノ收入及支出ニ關スル明細書ヲ添付シ特別法人稅法第十條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第十一條 削除

第十二條第一項中「ノ各月末」ヲ「末」ニ改メ「ノ月對平均額」ヲ削ル

第十三條第一項中「若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日」ヲ、「合併ノ日又ハ清算著手ノ日ヨリ三十日」ニ改ム

第十四條第二項中「十四日」ヲ「三十日」ニ改ム

第十三條ノ二 解散シタル特別ノ法人ノ清算剩餘金ハ殘餘財産確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計算書ヲ添付シ之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

殘餘財産ヲ數回ニ分テ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スベキ殘餘財産確定ノ都度之ヲ申告スベシ

第十三條ノ三 合併ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ清算剩餘金ハ合併ノ日ヨリ三十日以内ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資産ノ明細書ヲ添付シ合併後存続スル特別ノ法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル特別ノ法人之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第四條 營業稅法施行規則中左ノ通改正ス

第十二條乃至第十六條 削除

第十七條中「若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日」ヲ、「合併ノ日又ハ清算著手ノ日ヨリ三十日」ニ改ム

第十九條中「十四日」ヲ「三十日」ニ改ム

第五條 臨時利得稅法施行規則中左ノ通改正ス

第七條及第八條 削除」ヲ「第八條 削除」ニ改ム

第七條 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人(合併法人ト稱ス)以下本條ニ於テ同ジ)ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ積立金額ヲ繼承シタルトキハ當該積立金額ニ合併法人ノ合併ノ日ノ屬スル事業年度中合併ノ

日以後ノ月數ヲ乘ジタルモノヲ合併法人ノ合併ノ日ノ屬スル事業年度ノ月數ヲ以テ除シタル金額ヲ合併法人ノ臨時利得稅法第六條第一項ニ規定スル各事業年度開始ノ時ニ於ケル積立金額ニ加算ス

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付テ之ヲ準用ス  
第十五條中「若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日」ヲ「合併ノ日又ハ清算著手ノ日ヨリ三十日」ニ改ム

第六條 家屋稅法施行規則中左ノ通改正ス  
第二十四條ノ二 同一市町村內ニ於ケル家屋ニ付納付スベキ家屋稅額ガ二百圓ヲ超ユルトキハ其ノ二分ノ一ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ四月其ノ徵收ヲ猶豫ス

第二十四條ノ三 前條ノ規定ニ依リ徵收ノ猶豫ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ納期開始前三十日迄ニ家屋所在ノ市町村ヲ經由シ稅務署長ニ申請スベシ  
前項ノ申請期限經過後新ニ家屋稅法第五十四條ノ二及前條ノ規定ニ該當スル

至リタル場合ニ於テハ納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得  
第七條 相續稅法施行規則中左ノ通改正ス

第二條ノ四ニ左ノ一項ヲ加フ  
稅務署長特別ノ事情アリト認ムルトキハ第一項ノ申請ナキ場合ト雖モ相續稅法第五條ノ二第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スコトヲ得  
第二條ノ七ニ左ノ一項ヲ加フ  
稅務署長特別ノ事情アリト認ムルトキハ第一項ノ申請ナキ場合ト雖モ相續稅法第二十三條第三項ノ規定ニ依リ控除ヲ爲スコトヲ得

第八條 通行稅法施行規則中左ノ通改正ス  
第一條ヲ第一條ノ二トス  
第一條 區間制ニ依リ運賃ヲ定メタル線路及路線並ニ區間制ニ依リ運賃ヲ定メタル航路ニシテ起終點間ノ航路ノ程程百軒以下ノモノニ付テハ通行稅法第二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ通行稅ヲ課ス

第二條ニ左ノ三號ヲ加フ  
四 運賃ヲ一定ノ程ヲ基準トシテ料制ニ依リ定メ一定ノ區間ニ付該運賃ヲ以テ乘車船ヲ爲スコトヲ得ル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ該運賃計算ノ基準ト爲リタル程程ニ依リ乘車船區間ノ程程ヲ計算ス  
五 連絡運輸ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ程程ハ各運輸業者毎ニ之ヲ計算ス  
六 同一契約ニ依リ汽車、電車、乘合自動車又ハ汽船ノ中ニ以上ニ乘車船シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ程程ハ汽車及電車、乘合自動車又ハ汽船各別ニ之ヲ計算ス  
第三條中「第二條第一項第五項及」第三條第一項及第二項「第二條ノ二第一項、第三條第一項並ニ」ニ改ム  
第四條中「第二條第六項」ヲ「第二條第四項及第二條ノ二第五項」ニ改ム  
第五條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改ム  
道省ヲ「運輸通信省」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ  
連絡運輸ノ場合ニ於テハ通行稅ハ各運輸業者各別ニ之ヲ拂込ムベシ

前項ノ場合ニ於テハ通行稅ノ納期限ハ各運輸業者ガ其ノ經營スル區間ノ運賃、急行料金又ハ寢室料金ヲ取得シタル月ノ翌月末日トス  
第八條第三號中「均一運賃」ノ下ニ「一定ノ程程ヲ基準トシテ料制ニ依リ定メ一定ノ區間ニ付該運賃ヲ以テ乘車船ヲ爲スコトヲ得ル旨定メタルトキハ其ノ各區間及運賃計算ノ基準ト爲リタル程程並ニ一桿當運賃」ヲ加ヘ同條第六號中「連帶運輸」ヲ「連絡運輸」ニ改ム  
第十二條第一號中「人員」ノ下ニ「乘車船料制」ヲ加フ  
第十三條中「鐵道省」ヲ「運輸通信省」ニ改ム  
第九條 明治三十九年勅令第二百十九號中左ノ通改正ス  
第二條中「十五圓」ヲ「三十圓」ニ「千分ノ三」ヲ「千分ノ四」ニ「十二圓」ヲ「二十五圓」ニ「五圓」及「四圓」ヲ「十圓」ニ「一圓五十錢」ヲ「三圓」ニ「一圓」ヲ「二圓」ニ改ム  
第三條中「七圓」ヲ「十五圓」ニ「五圓」ヲ「十圓」ニ「三圓」ヲ「七圓」ニ「一圓五十錢」ヲ「三圓」ニ「一圓」ヲ「二圓」ニ改ム

第十條 酒稅法施行規則中左ノ通改正ス  
第一節 酒類製造石  
酒稅法施行規則目次中  
第三節 酒類運出  
第四節 原料用及  
第五節 納稅擔保  
稅稅  
輸出貨類  
「第二節 酒稅ノ徵收」  
「第三節 納稅ノ擔保」

第一條第一項第三號中「アルコール」ノ下ニ「又ハ連續式蒸餾機ニ依リ製造シタル燒酎」ヲ、同條第二項中「アルコール」ノ下ニ「又ハ燒酎」ヲ、「品種」ノ下ニ「アルコール」ヲ加フ  
第一條ノ二 酒稅法第四條第二項後段ノ規定ニ依リ清酒ニ加フル物品ヲ定ムルコト左ノ如シ  
一 連續式蒸餾機ニ依リ製造シタル燒酎  
二 大藏大臣ノ指定スル香味料  
酒類製造者ガ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケ製造若ハ移入シタルアルコール若ハ前項第一號ノ燒酎又ハ同項第二號ノ香味料ヲ清酒ニ加ヘタルモノニシテ當該アルコール又ハ燒酎ノアルコール分ノ總量量ガ當該清酒ノアルコール分ノ總量量ヲ超エザルモノハ酒稅法第四條第二項後段ノ規定ニ依リ之ヲ清酒ト看做ス

前項ノ清酒ヲ製造セントスル者ハ當該アルコール又ハ燒酎及清酒ノ品種、アルコール分及數量、第一項第二號ノ香味料ノ種類及數量並ニ混和ノ日及場所ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署ニ提出シ承認ヲ受クベシ  
第三條中「若ハ蘇鐵ノ實」ヲ「蘇鐵ノ實」ニ「又ハ清酒粕」ヲ「清酒粕」ニ「若ハ味淋粕」ヲ「味淋粕其ノ他大藏大臣ノ指定スル物品」ニ改ム  
第十四條ノ六「第二節 酒類造石稅」及第十五條乃至第二十條ヲ削リ第十四條ノ二ヲ第十六條トシ第三章第一節中同條ノ前ニ左ノ一條ヲ加フ  
第十五條 酒稅法第二十七條第二項ノ酒類ニシテ大藏大臣ノ指定スルアルコール分ニアルコール分二度ヲ加ヘタルアルコール分ヲ超ユルアルコール分五十度ヲ超エザルモノニ課スベキ酒稅ノ稅率ハ同項ノ規定ニ依リ一石ニ付同條第一項ニ規定スル金額ニ大藏大臣ノ指定スルアルコール分ヲ超ユル一度毎ニ同條第二項ニ規定スル金額ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第十四條ノ三中「級別」ノ下ニ「アルコール分」ヲ加ヘ同條ヲ第十七條第一項トス

第十四條ノ四中「酒類庫出税」ヲ「酒税」ニ「級別」ヲ「級別、アルコール分」ニ改メ同條ヲ第十七條第二項トス

第十四條ノ五第一項中「製造若ハ移入シタルアルコール」ヲ「移入シタルアルコール」ニ「製造若ハ移入スベキアルコール」ノ石數ヲ「移入スベキアルコール」ノアルコール分毎ニ數量ニ「同條第二項中「酒税法第二十七條ノ四」ヲ「酒税法第二十七條ノ四第一號」ニ「酒類造石税」輕減又ハ免除ス」ヲ「酒税」輕減スニ「同條第三項中「酒類造石税」輕減又ハ免除」ヲ「酒税」輕減」ニ「査定」ヲ「檢定」ニ改メ同條ヲ第十九條トス

第十八條 大藏大臣ノ指定スル者ガ酒税法第二十七條ニ規定スル税率ニ依リ酒税ヲ課セラレタル酒類ヲ同法第二十七條ノ三第一項ノ用途ニ充ツル爲メ酒類ノ種類、級別、アルコール分、數量並ニ賣買ノ時期、場所及方法ニ付所轄稅務署長ノ指定スル所ニ依リ販賣ヲ爲シタルトキハ同條第四項ノ規定ニ依リ同條第

一項ノ酒税輕減額ニ相當スル金額ヲ交付ス  
前項ノ金額ノ交付ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由及同項ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ニ販賣ヲ爲シタル酒類ノ種類、級別及アルコール分毎ノ石數ニ付販賣ノ事實ヲ提出スベシ  
第二十條 所轄稅務署ノ承認ヲ受ケ製造シタル第一條第一項第三號ノアルコール若ハ燒酎、第一條ノ二第二項ノ清酒ノ原料トシテ製造シタルアルコール若ハ燒酎又ハ第三條ノ二第一項ノ燒酎ノ原料トシテ製造シタルアルコールニ付テハ酒税法第二十七條ノ四第二號ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒税ヲ輕減ス  
前項ノ規定ニ依リ酒税ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ當該原料用酒類ノ製造石數及アルコール分並ニ檢定ノ日ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ  
前項ノ場合ニ於テ稅務署長必要アリト認ムルトキハ當該原料用酒類ヲ移出先ニ移入シタルコトヲ證スベキ書類又ハ

第一條第一項第三號ニ規定スル釀造方法ニ依リ清酒ノ原料ニ供シタルコト若ハ第一條ノ二第二項ノ清酒若ハ第三條ノ二第一項ノ燒酎ノ原料ニ供シタルコトヲ證スベキ書類ヲ提出セシムルコトヲ得  
前條第四項ノ規定ハ第一項ノ原料用ノアルコール又ハ燒酎ニ付テハ準用ス  
「第三節 酒類庫出税」ヲ「第二節 酒税」ニ改ム  
第二十二條中「前項」ヲ「第一項」ニ「前二項」ヲ「前三項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
前項ノ場合ニ於テ左ニ掲グルアルコール分ヲ超ユルアルコール分ノ酒類アルコール分毎ニ酒類ノ移出石數ヲ記載スベシ  
一 酒税法第二十七條第一項第六號ノ燒酎ニ付テハアルコール分二十度  
五度  
二 酒税法第二十七條第一項第九號ノ第二級及第三級ノ雜酒ニ付テハアルコール分二十度

第一條第一項第三號ニ規定スル釀造方法ニ依リ清酒ノ原料ニ供シタルコト若ハ第一條ノ二第二項ノ清酒若ハ第三條ノ二第一項ノ燒酎ノ原料ニ供シタルコトヲ證スベキ書類ヲ提出セシムルコトヲ得  
前條第四項ノ規定ハ第一項ノ原料用ノアルコール又ハ燒酎ニ付テハ準用ス  
「第三節 酒類庫出税」ヲ「第二節 酒税」ニ改ム  
第二十二條中「前項」ヲ「第一項」ニ「前二項」ヲ「前三項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
前項ノ場合ニ於テ左ニ掲グルアルコール分ヲ超ユルアルコール分ノ酒類アルコール分毎ニ酒類ノ移出石數ヲ記載スベシ  
一 酒税法第二十七條第一項第六號ノ燒酎ニ付テハアルコール分二十度  
五度  
二 酒税法第二十七條第一項第九號ノ第二級及第三級ノ雜酒ニ付テハアルコール分二十度

三 第十五條ノ規定ノ適用ヲ受クル酒類ニ付テハ同條ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ指定スルアルコール分ニアルコール分ニ度ヲ加ヘタルアルコール分

四 酒税法第二十七條第三項ノ酒類ニ付テハアルコール分五十度  
第二十二條ノ二 稅務署長酒税保全上必要アリト認ムルトキハ酒類製造者ニ對シ第四十三條第一項ノ指定期限内ニ擔保ノ提供又ハ酒類ノ保存ヲ爲サザル場合ニ於テハ酒税法第三十六條ノ二第一號ノ規定ニ依リ酒税ヲ徵收スベキコトヲ通知スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ酒類製造者擔保ノ提供又ハ酒類ノ保存ヲ爲サザルトキハ製造場ニ現存スル酒類ハ酒税法第三十六條ノ二第一號ノ規定ニ依リ之ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ直ニ其ノ酒税ヲ徵收ス  
前項ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ移出シタルモノト看做サレタル酒類ニ付酒税法第三十五條第一項ノ規定ニ依リ申告書ヲ提出スベシ  
第二十二條ノ三 第二十條第一項ノ原料用ノアルコール又ハ燒酎ヲ同一製造場

ニ於テ第一條第一項第三號ニ規定スル釀造方法ニ依リ清酒ノ原料ニ供シタルトキ又ハ第一條ノ二第二項ノ清酒若ハ第三條ノ二第一項ノ燒酎ノ原料ニ供シタルトキハ當該原料用酒類ハ酒税法第三十六條ノ二第二號ノ規定ニ依リ之ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做ス  
前項ノ場合ニ於テハ酒類製造者ノ申請ニ依リ當該原料用酒類ヲ使用シテ製造シタル酒類ヲ製造場ヨリ移出シタル月ノ翌月末日迄ニ酒税ヲ徵收スルコトヲ得  
第二十三條第一項中「級別」ヲ「級別アルコール分」ニ「査定又ハ檢定ノ日」ヲ「檢定ノ日」ニ「同條第三項中「第一項」ヲ「前項」ニ改メ同條第二項ヲ削リ同條 左ノ一項ヲ加フ  
第十九條第四項ノ規定ハ前項ノ承認ヲ爲シタル酒類ニ付テハ準用ス  
第二十四條第一項中「酒類庫出税」ヲ「酒税」ニ「級別」ヲ「級別、アルコール分」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
前項ノ場合ニ於テハ失シタル場所ガ同項ノ稅務署ノ管轄ニ屬セザルトキハ最

寄稅務署ニ亡失ノ事實ヲ申告シテ交付ヲ受ケタル證明書ヲ添附スベシ  
第二十五條第一項中「及級別」ヲ「級別及アルコール分」ニ「同條第二項中「酒類庫出税」ヲ「酒税」ニ改ム  
「第四節 原料用及輸已向酒類」ヲ削リ  
第二十六條乃至第三十條 削除  
第三十二條及第三十三條 削除  
第三十四條第一項中「酒類庫出税」ヲ「酒税」ニ「級別」ヲ「級別、アルコール分」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
前項ノ承認ヲ受ケタル者ハ其ノ輸出申請書ニ少クとも當該酒類ノ種類、級別、アルコール分及石數、檢定ノ日及場所、酒類製造者ノ住所及氏名又ハ名稱、輸出先並ニ積載スベキ船舶名及其ノ内國寄港地ヲ記載スベシ  
第三十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
前項ノ場合ニ於テ稅務署長必要アリト認ムルトキハ當該酒類ヲ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スベキ書類ヲ提出セシムルコトヲ得  
第三十六條中「酒類庫出税」ヲ「酒税」ニ改ム  
「第五節 納稅擔保」ヲ「第三節 納稅ノ擔保」ニ改ム

寄稅務署ニ亡失ノ事實ヲ申告シテ交付ヲ受ケタル證明書ヲ添附スベシ  
第二十五條第一項中「及級別」ヲ「級別及アルコール分」ニ「同條第二項中「酒類庫出税」ヲ「酒税」ニ改ム  
「第四節 原料用及輸已向酒類」ヲ削リ  
第二十六條乃至第三十條 削除  
第三十二條及第三十三條 削除  
第三十四條第一項中「酒類庫出税」ヲ「酒税」ニ「級別」ヲ「級別、アルコール分」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
前項ノ承認ヲ受ケタル者ハ其ノ輸出申請書ニ少クとも當該酒類ノ種類、級別、アルコール分及石數、檢定ノ日及場所、酒類製造者ノ住所及氏名又ハ名稱、輸出先並ニ積載スベキ船舶名及其ノ内國寄港地ヲ記載スベシ  
第三十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
前項ノ場合ニ於テ稅務署長必要アリト認ムルトキハ當該酒類ヲ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スベキ書類ヲ提出セシムルコトヲ得  
第三十六條中「酒類庫出税」ヲ「酒税」ニ改ム  
「第五節 納稅擔保」ヲ「第三節 納稅ノ擔保」ニ改ム

第三十八條 削除

第三十九條中「第三十二條第三項(同法第四十一條第二項)ニ於テ準用スル場合ヲ含ム」同法ヲ削ル

第四十條 稅務署長酒稅保全上必要アリト認ムルトキハ酒類製造者ニ對シ金額及期間ヲ指定シ酒稅ニ付擔保ヲ提供スベキコト又ハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ保存スベキコトヲ命ズルコトヲ得

稅務署長必要アリト認ムルトキハ前項ノ金額又ハ期間ヲ變更スルコトヲ得

第四十一條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第四十二條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第四十三條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第四十四條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第四十五條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第四十六條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第四十七條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第四十八條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第四十九條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第五十條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第五十一條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第五十二條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第五十三條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第五十四條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第五十五條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第五十六條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第五十七條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第五十八條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第五十九條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第六十條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第六十一條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第六十二條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第六十三條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第六十四條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第六十五條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第六十六條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第六十七條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第六十八條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第六十九條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第七十條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第七十一條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第七十二條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第七十三條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第七十四條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第七十五條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第七十六條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第七十七條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第七十八條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第七十九條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第八十條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第八十一條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第八十二條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第八十三條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第八十四條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第八十五條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第八十六條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第八十七條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第八十八條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第八十九條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第九十條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第九十一條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第九十二條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第九十三條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第九十四條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第九十五條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第九十六條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第九十七條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第九十八條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第九十九條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

第一百條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

ノ方法ヲ定メ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第四十八條中「第一項又ハ第二項」ヲ削リ

「擔保ノ提供」ノ下ニ「又ハ酒類ノ保存」ヲ加フ

第四十九條第二項ヲ削ル

第五十二條中「稅關」ヲ「海運局」ニ「稅關」ヲ「海運局長」ニ改ム

第五十二條ノ二 酒類ヲ製造シタルトキハ製成ノ時一容器毎ニ其ノ石數及アルコイル分ヲ檢定ス但シアルコイル分ノ檢定ニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

犯則其ノ他ノ事由ニ因リ製成ノ時製造石數又ハアルコイル分ノ檢定ヲ爲シ難キ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ其ノ製造石數又ハアルコイル分ヲ檢定ス

第五十四條第二項中「酒類ガ」ノ下ニ「變味又ハ」ヲ加フ

第六十七條 酒類、酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ酒類ノ販賣業者ハ前四條ニ規定スル場合ノ外製造、貯藏又ハ販賣ニ關シ稅務署長ノ指定スル事項ヲ申告スベシ

第六十九條 製造場ニ在ル酒類ガ亡失シタルトキハ酒類製造者ハ直ニ其ノ旨ノ申出ヲ爲シ稅務署長ノ検査ヲ受クベシ

第七十條 酒類、酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ酒類ノ販賣業者ハ前條ニ規定スル場合ノ外製造、貯藏又ハ販賣ニ關シ稅務署長ノ指定スル事項ニ付其ノ検査ヲ受クベシ

第七十一條 第二十條第一項ノ原料用酒類ヲ除クノ外酒類製造ノ原料ニ供スル爲酒類ヲ製造セントスルトキハ製成前ニ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

酒稅法第三十七條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケテ製造場ヨリ移出シタル酒類ヲ移出先ニ於テ酒類製造ノ原料ニ供セントスルトキハ其ノ旨ヲ移出先所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

第十九條第四項ノ規定ハ第一項ノ承認ヲ爲シタル原料用酒類ニ付テラ準用ス

第七十一條ノ二 酒類製造者清酒又ハ味淋ヲ清酒又ハ味淋精ニテ粕澆セントスルトキハ粕澆スベキ酒類ノアルコイル分及石數並ニ粕澆ノ方法及時期ニ付所轄稅務署ノ承認ヲ受クベシ

酒類製造者燒酎ヲ蒸餾セントスルトキハ蒸餾スベキ燒酎ノアルコイル分及石數並ニ蒸餾ノ時期ニ付所轄稅務署ノ承認ヲ受クベシ

第七十二條 製造場ニ在ル酒類ガ腐敗其ノ他ノ事由ニ因リ飲用ニ供シ難キ場合ニ於テ之ニ酒類トシテ飲用スルコト能ハザル處置ヲ施シ又ハ之ヲ酒類製造ノ原料ニ供セントスルトキハ其ノ方法ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クベシ

第七十三條 酒類、酒母、醪若ハ麴ノ製造者又ハ酒類ノ販賣業者ハ前三條ニ規定スル場合ノ外製造、貯藏又ハ販賣ニ關シ稅務署長ノ指定スル事項ニ付其ノ承認ヲ受クベシ

第七十三條ノ二ヲ削ル

第七十四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

酒稅法第五十九條第二項ノ規定ニ依リ前項ノ酒澆組合ニ交付スル交付金ハ酒類ノ製造石數ニ應ジ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ交付ス

第四章中第七十五條ノ三ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七十五條ノ四 酒稅法第八十三條第一項第一號ノ清酒ニシテ大藏大臣ノ指定

スルアルコイル分ニアルコイル分ニ度ヲ加ヘタルアルコイル分ヲ超エアルコイル分五十度ヲ超エザルモノニ課スベキ酒稅ノ稅率ハ同號ノ規定ニ依リ一石ニ付二百八十五圓ニ大藏大臣ノ指定スルアルコイル分ヲ超ユル一度毎ニ二十四圓ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第二十二條第二項第一號ノ規定ハ酒稅法第八十三條第一項第一號ノ燒酎ニ付、第二十二條第二項第三號ノ規定ハ前項ノ清酒ニ付之ヲ準用ス

第十一條 酒類委員會官制中左ノ通改正ス

第一條第三項中「酒稅法第二十七條第二項及酒稅法施行規則第十四條ノ二」ヲ「酒稅法第二十七條第四項及酒稅法施行規則第十六條」ニ改ム

第十二條 清涼飲料稅法施行規則中左ノ通改正ス

第二十一條 削除

第十三條 砂糖消費稅法施行規則中左ノ通改正ス

第九條ノ二中「大藏大臣」ヲ「稅務署長」ニ改ム

第九條ノ三第二項中「大藏大臣」ヲ「所轄稅務署」ニ改ム「詳細ナル」ヲ削リ同條第三項中「大藏大臣」ヲ「稅務署長」ニ改ム

第九條ノ六中「砂糖消費稅法第十一條第一項ニ依リ原料引取」ヲ「第十條」ニ改メ「同項各號ニ規定スル物品ノ製造場」ヲ削ル

第九條ノ八中「申告シ其ノ承認ヲ受クベシ」ヲ「申告スベシ」ニ改ム

第九條ノ九第一項中「申告シ當該官廳ノ證明シタル積載明細書ヲ提出シ其ノ承認ヲ受クベシ」ヲ「申告スベシ」ニ、同條第二項中「前項積載明細書ニ準シ更ニ積載明細書ヲ作成シ」ヲ「當該官廳ノ證明シタル積載明細書」ニ改ム

第九條ノ十三 緊急已ムコトヲ得サル場合ニ於テ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケ移入場以外ノ場所ニ内地移入糖ヲ藏置シタルトキハ當該移入糖ニ付テハ其ノ藏置場ヲ以テ移入場ト看做ス

第十條ノ二 一定ノ包裝ヲ爲シ移入場ヨリ引取ララルル砂糖ニシテ包裝ノ種類並ニ一包裝毎ノ容量及取引斤數カ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ルモノノ一包裝毎ノ斤數ハ其ノ取引斤數ニ大藏大臣ノ定ムル斤數ヲ加ヘタル斤數ニ依ル

第十一條第一項中「前條」ヲ「第十條」ニ改メ「但書」ノ下ニ「同法第四條ノ二」ヲ加ヘ同條第四項中「前條」ヲ「第十條」ニ改ム

第十二條ノ二 大藏大臣ノ指定スル者カ製造場又ハ保税地域ヨリ引取ル砂糖、糖蜜、糖水ノ消費稅ハ砂糖消費稅法第四條ノ二ニ依リ擔保ヲ提供セサルトキト雖モ引取リタル月ノ翌月末日迄其ノ徵收ヲ猶豫ス

第十三條第三項中「東京府」ヲ「東京都」ニ改ム

第十五條ノ二中「稅務署長」ノ上ニ「大藏大臣又ハ」ヲ加ヘ同條第一項トシテ左ノ一項ヲ加フ

擔保物ハ大藏大臣又ハ第十條ノ稅務署ニ提供スヘシ

第十五條ノ三第三項中「稅務署長」ノ上ニ「大藏大臣又ハ」ヲ加フ

第十六條第一項中「稅務署長」ノ上ニ「大藏大臣又ハ」ヲ加ヘ同條第二項中「所轄稅務署」ヲ「大藏大臣又ハ稅務署長」ニ改ム

第十七條中「稅關」ヲ「海運局」ニ改ム

第十八條ノ二第二項中「ブチルアルコール」ノ下ニ「又ハグリセリン」ヲ加フ

第十八條ノ三第一項中「又ハブチルアルコール」ヲ「ブチルアルコール又ハグリセリン」ニ改ム

第十八條ノ七中「稅關」ヲ「海運局」ニ改ム

第十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

大藏大臣ニ提供シタル擔保物ノ公賣ハ第二十條ノ稅務署之ヲ行フ

第二十三條中「二十四圓五十錢」ヲ「三十七圓五十錢（第八條第四號ニ該當スル砂糖原料トシテ製造シタルモノニ在リテ八十七圓五十錢）」ニ改ム

第二十四條及第二十五條第一項中「稅關」ヲ「海運局」ニ改ム

第二十七條ノ二第一項中「並ニブチルアルコール」ヲ「ブチルアルコール並ニグリセリン」ニ、同條第二項中「又ハブチルアルコール」ヲ「ブチルアルコール又ハグリセリン」ニ改ム

第二十八條中「又ハブチルアルコール」ヲ「ブチルアルコール又ハグリセリン」ニ改ム

第二十八條ノ二中「又ハ樺太」ヲ削ル

第二十九條中「稅關」ヲ「海運局」ニ改ム

第二十九條ノ二第一項中「團體」ノ下ニ「（其ノ組織スル團體ヲ含ム）」ヲ加ヘ同條第二項中「前項ノ團體」ヲ「前項ニ依リ徵稅上必要ナル施設ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命セラレタル團體（徵收補助團體ト稱ス以下同シ）」ニ改ム

第二十九條ノ三中「前條ノ團體同條」ヲ「徵收補助團體前條」ニ改ム

第二十九條ノ三ノ次ニ左ノ四條ヲ加フ

第二十九條ノ四 徵收補助團體ノ代表者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 團體員毎ノ毎月分ノ課稅標準額及稅額

二 特別消費稅ノ取纏納付ヲ爲ス團體ニ在リテハ團體員毎ニ納付稅額及納付ノ日

三 特別消費稅ノ納付資金ノ管理ヲ爲ス團體ニ在リテハ團體員毎ニ納付資金ノ受拂額及現在額並ニ納付稅額及納付ノ日

四 第二十九條ノ二第二項ニ依リ交付ヲ受ケタル金額及日並ニ交付金ヨリ支出シタル金額、目的及日

五 第二十九條ノ七第一項ニ依ル告知ヲ受ケタル場合ニ於テハ告知ヲ受ケタル稅額及日並ニ同條第二項ニ依リ通知ヲ爲シタル稅額及日

稅務署長ノ承認ヲ受ケタル團體ニ在リテハ前項第一號ノ記載ヲ要セス

第二十九條ノ五 收稅官吏砂糖消費稅法第十七條ノ六第一項ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スヘシ

第二十九條ノ六 稅務署長ハ必要アリト認ムルトキハ徵收補助團體ノ代表者ニ對シ當該事業ノ執行ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十九條ノ七 徵收補助團體ノ代表者ニ於テ砂糖消費稅法第七條ノ四第一項ニ依ル申告書ヲ取纏メ提出シタルトキハ稅務署長ハ其ノ代表者ニ對シ各團體員ノ納付スヘキ特別消費稅額ノ内譯ヲ示シテ同法第十七條ノ七第一項ニ依ル告知ヲ爲スコトヲ得

徵收補助團體ノ代表者前項ノ告知ヲ受ケタルトキハ直ニ各團體員ニ對シ其ノ納付スヘキ特別消費稅額並ニ之ヲ徵收補助團體ニ拂込ムヘキ期日及場所ヲ通知スヘシ

徵收補助團體ノ代表者ハ納期内ニ拂込ヲ了セサル團體員アルトキハ其ノ住所、氏名又ハ名稱及稅額ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第十四條 織物消費稅法施行規則中左ノ通改正ス

第十一條及第二十八條中「稅關」ヲ「海運局」ニ改ム

第二十九條第一項中「織物組合」ヲ「織物ノ製造者又ハ販賣者ノ組織スル團體（其ノ組織スル團體ヲ含ム）」ニ、「設備」ヲ「施設」ニ、同條第二項中「前項ノ織物組合」ヲ「前項ノ規定ニ依リ徵稅上必要ナル施設ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命セラレタル團體（徵收補助團體ト稱ス以下同シ）」ニ、同條第三項中「納稅濟證印」ヲ「納稅濟證印若ハ之ニ代ルヘキ證印」ニ、同條第四項中「織物組合」ヲ「徵收補助團體」ニ改ム

第三十條中「前條ノ織物組合同條」ヲ「徵收補助團體前條」ニ改ム

第三十一條 徵收補助團體ノ代表者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 當該團體ノ取扱ヒタル織物ニ付團體員毎ニ其ノ種類、品名、點數、課稅價格及稅額

第二十九條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル金額及日並ニ交付金ヨリ支出シタル金額、目的及日

第三十二條 收稅官吏織物消費稅法第二十四條第一項ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スヘシ

第三十三條 稅務署長ハ必要アリト認ムルトキハ徵收補助團體ノ代表者ニ對シ當該事業ノ執行ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 織物消費稅法第一條但書ノ規定ニ依リ消費稅ヲ課セサル織物ヲ定ムルコトヲ加シ

一 全重量百分中五十以上ノ綿トステープルファイバートノ混紡絲ノミヲ以テ組成スル織物

二 全重量百分中五十以上ノ綿トステープルファイバートノ混紡絲ト綿絲トヲ以テ組成スル織物

第十五條 廣告稅法施行規則中左ノ通改正ス

第四條ニ左ノ一號ヲ加フ

四 其ノ他大藏大臣ノ指定スル公共團體

第十六條 骨牌稅法施行規則中左ノ通改  
正ス  
第四條ノ二 骨牌稅法第四條第二項ノ骨  
牌ハ大藏大臣之ヲ指定ス

第十七條 所得稅法人稅内外地關涉法施行  
規則中左ノ通改正ス

第一條第一項中「事業所得」ヲ「甲種及乙  
種ノ事業所得」ニ、及乙種ノ退職所得」ヲ  
「乙種ノ退職所得及清算取引所得」ニ改  
メ同條第二項ヲ削ル

第二條 削除

第三條中「十分ノ四」ヲ「十分ノ三」ニ改ム

第十八條 昭和十八年勅令第三百二十一號  
中左ノ通改正ス

第二條第一項中「酒類庫出稅」ヲ「酒稅」ニ  
改ム

第三條中「酒類庫出稅」ヲ「酒稅」ニ、稅  
關ヲ「海運局」ニ改ム

第十九條 昭和十七年勅令第四百五十七號  
中左ノ通改正ス

第一條第一號中「事業所得ニシテ」ヲ「甲  
種及乙種ノ事業所得ニシテ」ニ改ム  
第二條第一項中「百分ノ十五ヲ百分ノ九  
ヲ」百分ノ二十ヲ百分ノ十四」ニ改ム

第三條第一項中「臨時租稅措置法第一條  
ノ五第一項ノ規定ニ拘ラス」ヲ削リ「百分  
ノ二十五ヲ百分ノ十三」ヲ「百分ノ三十ヲ  
百分ノ十二」ニ改ム

第二十條 國稅徵收法施行規則中左ノ通改  
正ス

第一條ノ二 地租ノ外左ノ國稅ハ市町村  
ニ於テ之ヲ徵收スヘシ  
一 所得稅(源泉課稅ニ依ルモノヲ  
除ク)  
二 個人ノ臨時利得稅  
三 家屋稅  
四 個人ノ營業稅  
五 樺太ニ於ケル市街宅地稅、第三種  
所得稅(源泉課稅ニ依ルモノヲ除  
ク)、個人ノ營業收益稅及乙種ノ資本  
利子稅

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵  
收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲クルモ  
ノニシテ納期ニ到リ稅金ノ徵收ヲ完ウ  
スルコト能ハスト認ムルモノニ限ル  
一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅  
二 所得金額決定ノ通知ヲ爲シタル所  
得稅、利得金額決定ノ通知ヲ爲シタ  
ル個人ノ臨時利得稅及純益金額決定  
ノ通知ヲ爲シタル個人ノ營業稅

第九條ノ三 戰時災害ニ因リ前條第一項  
ノ納稅團體又ハ同條第二項ノ徵收補助  
團體ニ對シ國稅ノ納付ヲ委託シテ交付  
シタル金錢ノ一部又ハ全部ガ亡失シタ  
ル爲被害ヲ受ケタル者ニ對シテハ命令  
ノ定ムル所ニ依リ其ノ被害金額ニ相當  
スル稅額ヲ當該國稅ヨリ輕減又ハ免  
除ス

附則  
第二十二條 本令ハ昭和十九年四月一日ヨ  
リ之ヲ施行ス  
第二十三條 不動產所得、乙種ノ配當利子  
所得、甲種及乙種ノ事業所得、乙種ノ勤  
勞所得、山林ノ所得、乙種ノ退職所得、清  
算取引所得及個人ノ總所得ニ對スル所得  
稅並ニ個人ノ營業稅ニ付テハ昭和十九年  
分ヨリ本令ヲ適用ス但シ改正後ノ所得稅  
法施行規則第三十六條(第一項但書ヲ除  
ク)、第三十六條ノ二、第三十七條及第四

三 製造場外ニ移出セラレタル酒類ニ  
對スル酒稅及清涼飲料ニ對スル清涼  
飲料稅並ニ販賣セラレタル砂糖ニ對  
スル砂糖特別消費稅及販賣セラレタ  
ル第一種ノ物品又ハ製造場ヨリ移出  
セラレタル第二種若ハ第三種ノ物品  
ニ對スル物品稅  
四 遊興、飲食又ハ宿泊ニ付領收シタ  
ル料金ニ對スル遊興飲食稅、特別行  
爲稅法第一條又ハ樺太特別行爲稅令  
第一條ニ掲グル行爲ニ付取得シ又ハ  
取得スヘカリシ料金ニ對スル特別行  
爲稅、入場又ハ設備ノ利用ニ付取得  
シ又ハ取得スヘカリシ入場料ニ對ス  
ル入場稅又ハ特別入場稅及第一種ノ  
廣告ニ付取得シ若ハ取得スヘカリシ  
料金又ハ第二種第三種ノ廣告ニ對ス  
ル廣告稅  
五 樺太ニ於ケル純益金額決定ノ通知  
ヲ爲シタル個人ノ營業收益稅、資本  
利子金額決定ノ通知ヲ爲シタル乙種  
ノ資本利子稅及製造石敷査定濟ノ酒  
類ニ對スル酒造稅  
第十一條第二項中「二十錢」ヲ「三十錢」ニ  
改ム

第十一條ノ二第一項中「三錢」ヲ「四錢」ニ  
改ム

第十六條第一項中「署名捺印」ノ下ニ「(記  
名捺印ヲ含ム以下同シ)」ヲ加フ

第二十一條 戰時災害國稅減免法施行規則  
中左ノ通改正ス

第三條第一項中「甲種ノ勤勞所得」ヲ上ニ  
「丙種ノ事業所得及」ヲ加フ

第八條第一項中「第二項」ヲ削ル

第九條ノ二 戰時災害ニ因リ納稅施設法  
第一條ニ規定スル納稅團體ノ管理スル  
納稅資金ガ亡失シタル爲被害ヲ受ケタ  
ル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ  
其ノ被害金額中國稅ノ納付資金ニ相當  
スル金額ノ稅額ヲ被害アリタル後最初  
ニ到來スル納期ニ於テ納付スベキ當該  
國稅ヨリ順次輕減又ハ免除ス

戰時災害ニ因リ砂糖消費稅法第十七條  
ノ五、物品稅法第二十五條ノ二、遊興飲  
食稅法第十八條、特別行爲稅法第二十  
條又ハ入場稅法第二十條ニ規定スル徵  
收補助團體ノ管理スル國稅ノ納付資金  
ガ亡失シタル爲被害ヲ受ケタル者ニ對  
シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ被害  
金額ニ相當スル稅額ヲ被害アリタル後

最初ニ到來スル納期ニ於テ納付スベキ  
當該國稅ヨリ順次輕減又ハ免除ス  
第一項ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除スベ  
キ稅額ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ命  
令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條ノ三 戰時災害ニ因リ前條第一項  
ノ納稅團體又ハ同條第二項ノ徵收補助  
團體ニ對シ國稅ノ納付ヲ委託シテ交付  
シタル金錢ノ一部又ハ全部ガ亡失シタ  
ル爲被害ヲ受ケタル者ニ對シテハ命令  
ノ定ムル所ニ依リ其ノ被害金額ニ相當  
スル稅額ヲ當該國稅ヨリ輕減又ハ免  
除ス

附則  
第二十二條 本令ハ昭和十九年四月一日ヨ  
リ之ヲ施行ス  
第二十三條 不動產所得、乙種ノ配當利子  
所得、甲種及乙種ノ事業所得、乙種ノ勤  
勞所得、山林ノ所得、乙種ノ退職所得、清  
算取引所得及個人ノ總所得ニ對スル所得  
稅並ニ個人ノ營業稅ニ付テハ昭和十九年  
分ヨリ本令ヲ適用ス但シ改正後ノ所得稅  
法施行規則第三十六條(第一項但書ヲ除  
ク)、第三十六條ノ二、第三十七條及第四

十一條ノ規定ハ昭和二十年分ヨリ之ヲ適  
用ス  
法人ノ各事業年度ノ所得及資本ニ對スル  
法人稅、各事業年度ノ純益ニ對スル營業  
稅並ニ法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十  
九年一月一日以後終了スル事業年度分ヨ  
リ、法人ノ清算純益ニ對スル營業稅ニ付  
テハ同日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因  
ル分ヨリ本令ヲ適用ス  
改正後ノ法人稅法施行規則第十八條及第  
二十條、營業稅法施行規則第十七條及第  
十九條並ニ臨時利得稅法施行規則第十五  
條ノ規定ハ法人ノ昭和十九年四月一日以  
後終了スル事業年度分又ハ同日以後ニ於  
ケル合併ニ因ル分ヨリ之ヲ適用ス  
特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ニ對ス  
ル特別法人稅ニ付テハ昭和十九年四月一  
日以後終了スル事業年度分ヨリ本令ヲ適  
用ス

第二十四條 所得稅法第八條、第十二條第  
一項第九號若ハ第八項又ハ第三十條第一  
項第二號若ハ第七項ノ改正規定ニ依リ新  
ニ納稅義務ヲ有スルニ至リタル者又ハ課  
稅所得ノ増加シタル者ハ所得稅法施行規  
則第三十六條ニ規定スル事項ヲ記載シ昭

昭和十九年三月 勅令 第百八十二號  
 所轄稅務署ニ提出スベシ  
 所得稅法第十二條第八項ノ改正規定ニ依リ新ニ納稅義務ヲ有スルニ至リタル者同法第二十五條又ハ第二十六條ノ二ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスルトキハ改正後ノ所得稅法施行規則第三十七條第一項及第二項又ハ第四十條ニ規定スル事項ヲ記載シタル申請書ヲ前項ノ申告同時ニ所轄稅務署ニ提出スベシ  
 所得稅法第二十四條ノ改正規定ニ依リ新ニ扶養家族ニ付同條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケルコトヲ得ルニ至リタル者同項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスルトキハ改正後ノ所得稅法施行規則第三十九條ニ規定スル事項ヲ記載シタル申請書ヲ昭和十九年四月一日以後最初ノ給與ノ支拂ヲ受ケル日ノ前日迄ニ其ノ給與ノ支拂者ヲ經由シ所轄稅務署ニ提出スベシ  
 所得稅法第二十五條ノ改正規定ニ依リ新ニ扶養家族ニ付同條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケルコトヲ得ルニ至リタル者同項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスルトキハ改正後ノ所得稅法施行規則第三十七條第一項及第二項ニ規定スル事項ヲ記載シタル申請書ヲ昭和十九年四月一日以後最初ノ給與ノ支拂者ヲ經由シ所轄稅務署ニ提出スベシ

タル申請書ヲ昭和十九年四月十五日迄ニ所轄稅務署ニ提出スベシ  
 所得稅法施行規則第五條第一項ノ改正規定ニ依リ新ニ甲種ノ勤勞所得ニ付納稅義務ヲ有スルニ至リタル者ハ所得稅法施行規則第三十八條ニ規定スル事項ヲ記載シタル申告書ヲ支拂者ヲ異ニスル毎ニ昭和十九年四月一日以後最初ノ給與ノ支拂ヲ受ケル日ノ前日迄ニ其ノ給與ノ支拂者ヲ經由シ所轄稅務署ニ提出スベシ  
 前項ニ規定スル者所得稅法第二十四條又ハ第二十六條ノ二ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスルトキハ改正後ノ所得稅法施行規則第三十九條又ハ第四十條ニ規定スル事項ヲ記載シタル申請書ヲ昭和十九年四月一日以後最初ノ給與ノ支拂ヲ受ケル日ノ前日迄ニ其ノ給與ノ支拂者ヲ經由シ所轄稅務署ニ提出スベシ  
 所得稅法第二十五條ノ改正規定ニ依リ新ニ扶養家族ニ付同條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケルコトヲ得ルニ至リタル者同項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスルトキハ改正後ノ所得稅法施行規則第三十七條第一項及第二項ニ規定スル事項ヲ記載シタル申請書ヲ昭和十九年四月一日以後最初ノ給與ノ支拂者ヲ經由シ所轄稅務署ニ提出スベシ

在ニ於ケル使用人又ハ勞務者ノ職名別人員ヲ記載シタル申告書ヲ本令施行後直ニ所轄稅務署ニ提出スベシ  
 稅務署長ハ本令施行後直ニ前項ニ規定スル者ニ付所得稅法施行規則第四條ノ二第一項ノ改正規定ニ依リ指定ヲ爲シ其ノ旨ヲ指定ヲ受ケタル者ニ通知スベシ  
 前項ノ場合ニ於テハ其ノ指定ハ所得稅法施行規則第四條ノ二第三項ノ改正規定ニ拘ラズ前項ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ起算シ五日ヲ經過シタル時ヨリ其ノ效力ヲ發生ス  
 改正前ノ所得稅法施行規則第五條第一項ノ規定ニ依ル指定ハ之ヲ所得稅法施行規則第四條ノ二第一項ノ改正規定ニ依リ常時三人以上ノ使用人ヲ使用スル個人ニ付爲シタル指定ト看做シ其ノ效力ハ本令施行ノ日ニ於テ發生スルモノトス  
 第二十五條 法人ノ昭和十八年十二月十一日以後同年十二月三十一日迄ニ終了シタル事業年度分ニ限リ改正前ノ昭和十七年勅令第四百五十七號第三條第一項中百分ノ十三トアルハ百分ノ七トス  
 第二十六條 昭和十九年法律第七號第三十條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケント

スル特別ノ法人ハ特別法人稅法第十條ノ申請書同時ニ控除ニ關スル明細書ヲ添付シテ所轄稅務署ニ申請スベシ  
 第二十七條 昭和十九年法律第七號第三十五條第三項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ第十條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル  
 昭和十八年十月一日以後ニ査定セラレタル獨酒、白酒、味淋及燒酎ノ酒類造石稅ニ付テハ昭和十九年法律第七號第三十五條第三項但書ノ規定ニ依リ其ノ稅額ヲ四分シ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ犯則ニ係ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
 第一期 昭和十九年七月一日ヨリ三十一日限  
 第二期 同年十月一日ヨリ三十一日限  
 第三期 昭和二十年二月一日ヨリ二十八日限  
 第四期 同年三月一日ヨリ三十一日限  
 昭和十九年法律第七號第三十五條第四項及第六項ノ從前ノ規定ニ依リ酒類造石稅ニ相當スル金額ハ當該酒類一石ニ付大藏大臣ノ定ムル金額ノ割合ニ依リ算出シタル金額トス

大藏大臣ノ指定スル味淋ニ課スベキ酒稅ニ付テハ昭和十九年法律第七號第三十五條第五項ノ規定ニ依リ改正後ノ酒稅法第二十七條ノ稅率ニ依リ算出シタル酒稅額ニ一石ニ付四百三十五圓ヲ加算ス  
 改正前ノ酒稅法第二十七條ノ三第一項ノ規定ニ依リ酒類庫出稅ヲ輕減セラレタル酒類ヲ取纏メ購入シタル者昭和十九年法律第七號第三十五條第六項ノ酒類ヲ所持スル場合ニ於テハ同項ノ規定ニ依リ酒稅ヲ課ス  
 左ニ掲グル酒類ヲ合計一斗以上所持スル場合ニ於テハ昭和十九年法律第七號第三十五條第六項ノ規定ニ依リ酒稅ヲ課ス  
 一 清酒  
 第一級  
 第二級  
 二 果實酒  
 第一級  
 第二級  
 三 雜酒  
 第一級  
 第二級  
 昭和十九年法律第七號第三十五條第六項ノ規定ニ依リ課スベキ酒稅ハ其ノ稅額ヲ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徵收ス

稅額千圓以下ナルトキ 昭和十九年五月及六月  
 稅額千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至七月  
 稅額二千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至八月  
 稅額五千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至九月  
 昭和十九年法律第七號第三十五條第七項ノ規定ニ依ル申告ハ酒類ノ所在地所轄稅務署ニ之ヲ爲スベシ  
 第二十八條 昭和十九年法律第七號第三十六條第一項ノ規定ニ依リ課スベキ清涼飲料稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ昭和十九年五月三十一日限、稅額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徵收ス  
 稅額百圓ヲ超ユルトキ 昭和十九年五月及六月  
 稅額千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至七月  
 稅額二千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至八月  
 稅額五千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至九月

昭和十九年法律第七號第三十六條第二項ノ規定ニ依ル申告ハ清涼飲料ノ所在地所轄稅務署ニ之ヲ爲スベシ

第二十九條 昭和十九年四月三十日以前ノ輸出ニ係ル菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノノ交付金ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前改正前ノ砂糖消費稅法施行規則第九條ノ二ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ指定シタル移入場ハ之ヲ本令施行ノ日ニ於テ改正後ノ同條ノ規定ニ依リ稅務署長ノ指定シタル移入場ト看做ス

昭和十九年法律第七號第三十七條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依リ課スベキ消費稅又ハ特別消費稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ昭和十九年五月三十一日限、稅額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徵收ス

稅額百圓ヲ超ユルトキ

昭和十九年五月及六月

稅額千圓ヲ超ユルトキ

同年五月乃至七月

稅額二千圓ヲ超ユルトキ

同年五月乃至八月

稅額五千圓ヲ超ユルトキ

同年五月乃至九月

昭和十九年法律第七號第三十七條第五項ノ規定ニ依ル申告ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所在地所轄稅務署ニ之ヲ爲スベシ

第三十條 昭和十九年法律第七號第四十一條第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ其ノ廣告ニ付廣告稅法施行規則第七條第一項ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ昭和十九年四月一日前ヨリ引續キ當該廣告ヲ爲スコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ廣告場所所轄稅務署ニ提出スベシ

第三十一條 本令施行前關東州ニ於テ酒類庫出稅ヲ課セラレタル酒類ヲ本令施行後輸入スル場合ニ於ケル酒稅ニ付テハ改正後ノ酒稅法ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル稅額ヨリ關東州ニ於テ課セラレタル酒類庫出稅ニ相當スル金額ヲ輕減ス

前項ノ規定ニ依リ輕減ヲ受ケントスル者ハ酒類ヲ保稅地域ヨリ引取ル際關東州ニ於テ課セラレタル酒類庫出稅ノ納付濟證明書又ハ擔保提供濟證明書ヲ添附シ所轄海運局ニ申請スベシ

第三十二條 酒類造石稅及本令施行前督促ヲ爲シタル國稅ニ對スル延滞金ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十三條 明治三十三年勅令第四十七號及昭和十五年勅令第百八十七號ハ之ヲ廢止ス

(參照)

昭和十九年二月十五 法律第七號ハ所得稅法外二十九法律中改正ノ件、明治三十三年三月二十勅令第四十七號ハ國稅徵收法ニ依ル公共團體指定ノ件、同三十九年八月勅令第三百十九號ハ領事官ノ取扱ヲ登記ノ登錄稅ニ關スル件、昭和十五年三月勅令第百八十七號ハ樺太ノ市町村ニ於テ徵收スベキ國稅ニ關スル件、同十七年四月三十勅令第四百五十七號ハ所得稅等ノ日滿二重課稅防止ニ關スル法律施行ニ關スル件及同十八年三月勅令第三百三十一號ハ昭和十八年法律第七十二號輸出スル物品ニ對スル内國稅免除又ハ交付金交付ノ停止等ニ關スル法律施行ニ關スル件ナリ

朕印紙稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十九年三月三十一日

內閣總理大臣 東條 英機  
內務大臣 安藤紀三郎  
大藏大臣 石渡莊太郎

勅令第百八十三號(官報號外)

印紙稅法施行規則

第一條 印紙稅法第五條第十四號ノ法人ヲ定ムルコト左ノ加シ

一 市町村農業會、道府縣農業會及全國農業經濟會

二 產業組合及產業組合聯合會

三 貸家組合、貸家組合聯合會、貸家組合及貸室組合聯合會

四 市街地信用組合

五 商工組合(所屬ノ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)

六 商業組合及商業組合聯合會(所屬ノ組合員組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)並ニ商業小組合

七 工業組合及工業組合聯合會(所屬ノ組合員組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)並ニ工業小組合

八 貿易組合及貿易組合聯合會(所屬ノ組合員組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)

九 漁業會、製造業會、道府縣水產業會及中央水產業會(所屬ノ會員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)

十 漁業協同組合及漁業組合聯合會

十一 鹽業組合、鹽業組合聯合會及鹽業組合中央會

十二 森林組合及森林組合聯合會(所屬ノ組合員組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)

十三 蠶絲共同施設組合

十四 自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會(所屬ノ組合員又ハ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)

十五 農林中央金庫

十六 商工聯合中央金庫

十七 相互會社

十八 市街庄農業會、州廳農業會及臺灣農業會

十九 州廳水產會及臺灣水產會

二十 臺灣產業金庫

第二條 市町村農業會、漁業會、製造業會及市街庄農業會ガ出資ノ義務ヲキ會員ニ對シテ爲ス事業ニ關シ發スル受取書ニハ印紙稅法第五條第十四號ノ規定ニ依リ印紙稅ヲ課セズ

第三條 印紙稅法第六條ノ規定ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケントスル者ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ稅務署ニ納付シ其ノ旨ヲ請求スベシ

第四條 印紙稅法第六條ノ規定ニ依リ一定ノ表示ヲ爲サントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シテ承認ヲ受ケ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ納付シ當該證書又ハ帳簿ニ大藏大臣ノ定ムル表示ヲ爲スベシ

第五條 印紙稅法第六條ノ二ノ規定ニ依リ印紙稅ヲ納メントスル者ハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ毎年三月十五日迄ニ所轄稅務署ニ提出シ承認ヲ受クベシ

印紙稅法第六條ノ二ノ規定ニ依リ印紙稅ヲ納ムルコトヲ得ベキ帳簿ノ種類ハ大藏大臣ノヲ定ム

第六條 前條第一項ノ承認ヲ受ケタル者ハ其ノ年四月一日ニ於ケル當該帳簿ニ付印紙稅法第六條ノ二ノ規定ニ依リ算出シタル印紙稅額ニ相當スル現金ヲ其ノ年四月二十日迄ニ所轄稅務署ニ納付スベシ

前條第一項ノ承認ノ有效期間ハ其ノ年四月一日ヨリ一年トス

第七條 稅務署長ハ印紙稅法第六條ノノ規定ニ依ル表示ニ付必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第八條 樺太ニ在リテハ本令中稅務署トアルハ樺太廳支廳トシ稅務署長トアルハ樺太廳支廳長トス

臺灣ニ在リテハ本令中大藏大臣トアルハ臺灣總督トシ稅務署トアルハ稅務官署トシ稅務署長トアルハ知事又ハ廳長トス

附則 本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス昭和十九年ニ限リ第五條第一項中三月十五日トアルハ四月一日トス

朕關東州地租令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十九年三月三十一日 內閣總理大臣 東條 英機 大東亞大臣 青木 一男

勅令第百八十四號(官報號外) 關東州地租令中左ノ通改正ス 第八條 地租ハ毎年十二月一日ヨリ二十八日限之ヲ徵收ス

同一稅務署所轄内又ハ同一會内ニ於ケル土地ニ付納付スベキ地租額ガ大使ノ定ムル金額ヲ超ユルトキハ其ノ二分ノ一ニ付テハ大使ノ定ムル所ニ依リ二月内其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第十條 地租ハ各納稅義務者ニ付同一稅務署所轄内又ハ同一會内ニ於ケル同一地目ノ土地毎ニ其ノ地價ノ合計金額ニ依リ算出シ之ヲ徵收ス但シ合計金額ガ十圓ニ滿タザルモノニ付テハ地租ヲ徵收セズ

第十九條ノ二 詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ地租ヲ遁脱シタル者ハ其ノ遁脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ地租ヲ徵收ス但シ自首シ又ハ稅務署長若ハ民政署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十九條ノ三 前條ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收スル場合ニ於テハ第十條ノ規定ニ拘ラズ當該土地一筆毎ニ其ノ地租ヲ算出ス

第十九條ノ四 第十九條ノ規定ニ依リ稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽

御名 御璽

昭和十九年三月三十一日 內閣總理大臣 東條 英機 大東亞大臣 青木 一男

ノ陳述ヲ爲シタル者又ハ土地ノ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十九條ノ五 大正十一年勅令第百號第一條ノ規定ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十五條第一項ヲ削ル 附則 本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス本令ハ昭和十九年分地租ヨリ之ヲ適用ス

(參照) 大正十一年四月十五日勅令第百號ハ關東州又ハ南洋群島ニ於ケル租稅ニ關シ事犯アリタルトキノ處罰ニ關スル件ナリ

朕關東州所得稅令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第百八十五號(官報號外) 關東州所得稅令中左ノ通改正ス

第二條第二號及第三條第二種甲中、又ハ銀行預金(東洋殖殖株式會社ノ預金ヲ含ム)ニ

ヲ、銀行預金(東洋殖殖株式會社ノ預金ヲ含ム)、銀行貯蓄預金又ハ金融組合預金ニ改ム

第四條第二項及第九條第二項中「第一種所得稅」ノ下ニ「法人資本稅」ヲ加フ

第十一條第一項中「事業年度分ノ所得」ノ下ニ「及清算所得」ヲ加フ

第十二條中「其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル」ヲ「其ノ支拂ヲ受クベキ金額(公債及社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額)ニ依ル」ニ改ム

第十二條ノ二中「配當」ノ下ニ「又ハ剩餘金ノ分配」ヲ、退社」ノ下ニ「脱退」ヲ加ヘ「又ハ社員」ヲ「社員又ハ出資者」ニ改ム

第十三條第一項第一號ノ二中「五千圓」ヲ「三千圓」ニ、同項第四號中「前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄」ヲ「前年中」ニ、「十分ノ二」ヲ「元本」ヲ得ルニ要シタル負債ノ利子ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前年一月一日ヨリ其ノ年分所得金額ノ決定前ニ關東州ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スルニ至リタル者ノ第三種ノ所得ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ大使之ヲ定ム

第十五條第四項中「先ツ」ノ下ニ「第十二條ノ二」規定スル利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分

配タル所得並ニ「同項」ヲ「第十二條ノ二」規定スル利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配タル所得並ニ第十三條第一項ニ改ム

第十八條中「法人稅法施行地」ヲ削リ「課セズ」ノ下ニ「所得稅法施行地ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第二種乙ノ所得中賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付亦同ジ」ヲ加フ

第十九條第一項中「所得稅法施行地」ヲ削リ「課セズ」ノ下ニ「所得稅法施行地ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第二種乙ノ所得中賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付亦同ジ」ヲ加フ

第二十條第四號中「金融組合預金及銀行貯蓄預金」ヲ削リ「同條第七號中「銀行預金」ヲ

「預金」ニ改ム

第二十四條第一項中「千圓」ヲ「八百圓」ニ改ム

第二十五條第一項中「百分ノ十五」ヲ「百分ノ二十」ニ、「百分ノ二十二」ヲ「百分ノ三十」ニ改ム

第二十六條第一項中「百分ノ十」ヲ「百分ノ十三」ニ、「百分ノ十五」ヲ「百分ノ十九」ニ、「百分ノ二十」ヲ「百分ノ二十五」ニ、「百分ノ二十六」ヲ「百分ノ三十一」ニ、「百分ノ三十一」ヲ「百分ノ三十七」ニ改メ同條第二項中「(前項ノ規定ニ依リ加算スル稅額ヲ含マズ)」ノ下ニ「法人資本稅額」ヲ加フ

御名 御璽

昭和十九年三月三十一日 內閣總理大臣 東條 英機 大東亞大臣 青木 一男

利率年四分以下ノモノ 百分ノ七・六

利率年四分ヲ超ユルモノ 百分ノ八・五

國債以外ノ公債及社債ノ利子 百分ノ十一

利率年四分五厘以下ノモノ 百分ノ十二

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ 百分ノ十三

銀行貯蓄預金及金融組合預金ノ利子 百分ノ十二・五

御名 御璽

昭和十九年三月三十一日 內閣總理大臣 東條 英機 大東亞大臣 青木 一男

別表ニテ削リ別表一ノニテ別表二トス  
別表三ニテ左ノ二行ヲ加フ  
大黒生葡萄酒 同 大黒葡萄酒株式會社  
キヤツスル印 同 兵衛縣 淡路葡萄酒株式會社  
ソイテルヌ 同 兵衛縣 株式會社  
別表四中「及アドミラルトルムソウキスキー」  
キー」及「スベヤルトムソウキスキー」  
及「アドミラルナムバウソウキスキー」  
ヲ削リブランド甲類ニ左ノ一行ヲ加フ  
甲鐵ブランド 同 山梨縣 今井精三  
別表五中「發泡酒」ヲ「發泡酒甲類」ニシテ藥味  
酒ヲ「藥味酒甲類」ニ改ム  
別表六中「甘味果實酒乙類」ヲ「甘味果實酒  
丙類」ニ改ム

●大藏省告示第百二十四號(官報號外)  
昭和十八年五月大藏省告示第百二十四號(酒稅  
法第二十七條ノ三第一項ノ規定ニ依ル用途  
指定ノ件)中「酒類庫出稅」ヲ「酒稅」ニ改メ  
昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十九年三月三十一日 大藏大臣 石渡莊太郎

●大藏省告示第百二十五號(官報號外)  
酒稅法施行規則第十五條ノ規定ニ依リ清  
酒、合成清酒、濁酒、白酒、味淋、果實酒及雜  
酒ノアルコール分左ノ通定メ昭和十九年四  
月一日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十九年三月三十一日 大藏大臣 石渡莊太郎

一 清酒	アルコール分十六度
第二級	同十五度
二 合成清酒	同十六度
第一級	同十五度
三 濁酒	同十度
四 白酒	同十度
昭和十八年九月大藏省告示第百八十八號六ノ (五)ノ特種白酒	同八・五度
五 味淋	同六度
其ノ他	同十一度
六 果實酒	同十度
第一級及第二級	同七度
七 雜酒	同十三度
第一級	同十三度
第二級	同十三度
昭和十八年九月大藏省告示第百八十八號二 ノ(一)ニ掲グルモノ	同十三度
ウキスキー ブランド甲類及 甘味果實酒甲類 リキユール類 藥味酒甲類 甘味葡萄酒甲類 發泡酒甲類	同四十三度 同二十三度 同二十二度 同十八度 同十四度 同十度

第三級	同十三度
同告示一ノ(一)及二ノ(一)ニ掲グルモノ	同十三度
ウキスキー乙類 ブランド乙類 ラム、ウオツカ又 ハジン	同四十四度 同四十四度 同四十四度
甘味ブランド甲	同三十度
類	同二十八度
甘味ブランド乙	同十八度
類	同十七度
セリー及藥味酒甲	同十五度
類	同十五度
ベルモット	同十四度
藥味酒乙類	同十三度
藥味酒丙類	同十度
其ノ他	同十度
第四級	同十度
同告示一ノ(一)及二ノ(一)ニ掲グルモノ	同十度
甘味果實酒丙類	同十五度
藥劑甘味葡萄酒乙	同十二度
類	同十度
其ノ他	同十度
八 特別規格酒類 前各項ノアルコール分ニ拘ラズ特ニ大藏大臣 ノアルコール分ノ指定アル酒類ニ付テハ當該 指定アルコール分	同十度

●大藏省告示第百二十六號(官報號外)  
昭和十九年勅令第百八十二號第二十七條第  
三項ノ規定ニ依リ酒類造石稅ニ相當スル金  
額ノ一石當金額左ノ通定メ昭和十九年四月  
一日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十九年三月三十一日 大藏大臣 石渡莊太郎

一 清酒(八ニ該當スルモノヲ除ク)	四十圓
第一級及第二級	三十八圓
第三級	三十八圓
二 合成清酒	四十圓
第一級	四十圓
第二級	二十八圓(アルコール分十六度ニ滿 タザルトキハ三十七圓)
三 濁酒	二十九圓
四 白酒	二十九圓
五 味淋	四十四圓(アルコール分二十二度 ニ滿タザルトキハ三十七圓)
六 燒酎(八及九ニ該當スルモノヲ除ク)	四十八圓(アルコール分二十六 度ニ滿タザルトキハ四十圓)
依リ製造シタル モノ	四十五圓(同三十七圓)
七 雜酒	五百十圓
第一級	五百十圓
第二級	五百十圓
昭和十八年九月大藏省告示第百八十八號二 ノ(一)ニ掲グルモノ	五百十圓
ウキスキー 甲類及ブランド ソイテルヌ	五百十圓

甘味果實酒	百十圓
甲類	百十圓
リキユール	九十圓
類	九十圓
藥味酒甲	五十圓
類	五十圓
發泡酒甲類	五十圓
第三級	五十圓
同告示一ノ(一)及二ノ(一)ニ掲グルモノ	五十圓
ウキスキー ブランド ソイテルヌ	四百五十圓
類	四百五十圓
オツカ又ハ ソイテルヌ	二百五十圓
甘味ブランド	二百五十圓
類	二百五十圓
デリー乙類	四十六圓
セリー及藥	四十三圓
味酒甲類	四十三圓
ベルモット	三十八圓
藥味酒乙類	三十六圓
藥劑甘味葡	三十六圓
萄酒甲類及	三十六圓
甘味葡萄酒	三十四圓
藥味酒丙類	三十四圓
甘味果實酒	二十六圓
乙類及發	二十六圓
泡酒乙類	二十六圓
酒甲類及發	二十六圓
泡酒乙類	二十六圓
雜酒	二百五十圓
特掲セザル	二百五十圓
酒類	二百五十圓
五十四圓(アルコール分二十度ヲ超 スルトキハアルコール分二十度ヲ加フ ニテ計算スルモノ)	二百五十圓

●大藏省告示第百二十七號(官報號外)  
昭和十九年勅令第百八十二號第二十七條第  
四項ノ規定ニ依リ味淋左ノ通定メ昭和十九  
年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十九年三月三十一日 大藏大臣 石渡莊太郎

同告示六ノ(二)ニ掲グルモノ	四百五十圓
ボンカノ	二百十圓
五加皮酒	五十圓
老酒	五十圓
第四級	五十圓
同告示一ノ(一)及二ノ(一)ニ掲グルモノ	五十圓
甘味果實酒	三十八圓
類	三十八圓
藥劑甘味葡	三十一圓
萄酒乙類	三十一圓
甘味葡萄酒	二十六圓
乙類及甘味	二十六圓
果實酒丁類	二十六圓
八 東京都小笠原島及伊豆七島ニ於テ製造シタ ル清酒及燒酎	十三圓
燒酎	十三圓
九 沖繩縣ニ於テ製造シタル燒酎(内地ノ他ノ 地方ニ在ルモノヲ除ク)	十五圓(アルコール分二十六度ニ 滿タザルトキハ十三圓)
燒酎	十三圓
地方ニ在ルモノヲ除ク)	十三圓
三十三圓(アルコール分二十六度ニ 滿タザルトキハ三十二圓)	三十三圓

(三)一及二ノ價格ハ十五ニ定ムル引渡場所ニ於テ當該容器ト同種同等ノ空壺ト引換ニ販賣スル場合ニ於ケル價格トシ其ノ他ノ場合ニ於テモ仍舊價格ニ依ルモノトス但シ十五ニ定ムル引渡場所ニ於テ左ノ金額ヲ以テ同種同等ノ空壺ヲ引取ルコトヲ條件トスル場合ニ限リ(一)及(二)ノ價格ニ左ノ金額ヲ加算スルコトヲ得ルモノトス

區分 金額(一壺當)

一斗壺 二・〇〇  
一斗五升壺 二・五〇

四 中味最高販賣價格(五)ノ價格特配酒ヲ除ク

製造者最 都道府縣 小賣業者最  
高販賣價 株式會社 高販賣價格  
格 正味 (一升以下一升ヲ超  
一升當) (正味一合當) (正味一  
一升當) (正味一合當)

清酒 第一級	一・二四	一・三三	一・五〇	二・一九五
清酒 第二級	七・二五	七・四三	五・〇〇	七・九五
清酒 第三級	四・三三	四・四八	四・九五	四・九五
清酒 第四級	五・二八	五・四五	五・四五	五・九五
清酒 第五級	三・八三	四・〇〇	四・四五	四・四五

都道府縣酒販賣株式會社及樽詰品又ハ壺詰品ヲ中味販賣スル場合ニ於テハ前項ノ價格ニ大藏大臣ノ承認ヲ受ケタル金額ヲ加算スルコトヲ得ルモノトス

小賣業者ノ屬スル酒販賣組合ニ於テ販賣ノ時期最長及方法ニ付財務局長ノ承認ヲ受ケ置賣スル場合ニ於ケル一升以下正味一合當ノ

小賣業者最高販賣價格ハ清酒第一級品ハ一圓二十錢同第二級品ハ八十錢、合成清酒第一級品ハ六十錢トス

五 價格特配酒(酒税法第二十七條ノ三ノ規定ニ依リ酒稅ヲ輕減セラレタル清酒及合成清酒ヲ謂フ)最高販賣價格

(一)一升樽詰品、四斗樽詰品、一斗壺詰品及中味販賣價格

左ノ價格ヲ基準トシ(四)乃至(六)、(二)(五)乃至(八)又ハ(三)(三)ノ例ニ依リ算出シタル價格ニ依ルモノトス

一升樽詰品	正味一升	三・〇〇	三・七〇
四斗樽詰品	正味四斗	一・三〇〇	一・五〇〇
一斗壺詰品	正味一斗	三・〇〇	三・三〇
超一升中味	一升當	三・〇六	三・三六
正味一升以下中味販賣	一合當	一	一

製造者 最高販賣價格 小賣業者 最高販賣價格

製造者 最高販賣價格 小賣業者 最高販賣價格

製造者 最高販賣價格 小賣業者 最高販賣價格

一升樽詰品	正味一升	三・九〇	三・〇〇
四斗樽詰品	正味四斗	一・三〇〇	一・五〇〇
一斗壺詰品	正味一斗	三・三〇	三・六〇
超一升中味	一升當	二・三〇	三・三〇
正味一升以下中味販賣	一合當	一	一

(二)四合樽詰品等販賣價格

四合樽詰品、三合樽詰品、三斗八升樽詰品、二斗樽詰品、一斗樽詰品又ハ一斗五升樽詰品ノ最高販賣價格ハ(一)ニ掲グル價格ヲ基準トシ(二)乃至(六)(二)(二)乃至(八)又ハ(三)(二)及(三)ノ例ニ依リ算出シタル價格ニ依ルモノトス

(三)酒税法施行規則第十八條第一項ノ規定ニ依リ販賣ノ指定ヲ受ケタル場合ニ於ケル都道府縣酒類販賣株式會社及小賣業者ノ販賣價格ハ(一)又ハ(二)ノ價格ニ依ルモノトス

六 酒場、料理店等(酒税法施行規則第十條ニ規定スル酒類販賣業者ヲ謂フ)最高販賣價格(正味一合當)

種類及級別 最高販賣價格

清酒 第一級 一・五〇  
第二級 一・〇〇  
第三級 七・五  
第四級 七・五

合成清酒 第一級及第二級 七・五

七ノ項中「乃至四」ヲ「乃至五」ニ「五圓ノ範圍内ニ於テ増加シタル金額又ハ一石ニ付十圓ノ範圍内ニ於テ減少シタル十圓ノ範圍内ニ於テ増加又ハ減少」ニ改ム

八乃至十一及十五ノ項中「道府縣酒類販賣株式會社」ヲ「都道府縣酒類販賣株式會社」ニ改ム

九ノ項中「同一場所」ヲ「同一場所又ハ之ト隣接スル場所」ニ「乃至四」ヲ「乃至五」ニ「六錢」ヲ「十錢(特別ノ事情アルトキハ十錢ノ範圍内ニ於テ財務局長ノ承認ヲ受ケタル金額)」ニ改ム

十三ノ項ヲ削ル

十四ノ項ヲ左ノ如ク改ム

十四 酒稅ノ免除又ハ輕減ヲ受ケタル清酒又ハ合成清酒(五)ノ價格特配酒及酒稅法第二十七條ノ四ノ酒類ヲ除ク)ノ販賣スル場合ノ價格ハ一乃至四ノ價格ヨリ當該免除又ハ輕減ノ酒稅相當額ヲ控除シタル價格ニ依ルモノトス

十五ノ項中「乃至四」ヲ「乃至五」ニ「製造場渡價格」ヲ「製造場戸口渡價格」ニ「財務局長ノ承認ヲ受ケタル小運送費ノ一部ニ相當スル金額」ヲ「運送費ノ一部ニ相當スル

金額ニシテ財務局長ノ承認ヲ受ケタルモノニ改ム

十六ノ項中「清酒第四級」ヲ「清酒第三級」ニ「八十錢」ヲ「一圓」ニ改メ同項ヲ十三ノ項トス

十八ノ項中「六、七、九、十三及十四」ヲ「一、五及六、二、六、三、四、七、九」ニ改ム

十九ノ項ヲ左ノ如ク改ム

十九 疊詰樽詰又ハ壺詰シタル清酒又ハ合成清酒ニシテ酒類價格規則第五條ニ規定スル表示ヲ爲サザルモノノ價格ハ合成清酒第二級ノ最高販賣價格ノ百分ノ八十二ニ相當スル金額トシ清酒第三級又ハ合成清酒第二級ニシテアルコール分十五度以上、原エキス分二十八度以上ノ成分規格ヲ有セザル清酒又ハ合成清酒ノ價格ハ清酒第三級又ハ合成清酒

第二級ノ最高販賣價格ヨリアルコール分十五度ヲ下ル一度迄毎ニ當該販賣價格ノ十分ノ一ヲ控除シタル金額又ハ原エキス分二十八度ヲ下ル一度迄毎ニ當該販賣價格ノ十分ノ一ヲ控除シタル金額ノ何レカ少キ金額(其ノ額當該最高販賣價格ノ十分ノ一ヲ下ルトキハ當該最高販賣價格ノ十分ノ一トス)

二十ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

二十一 昭和十九年三月三十一日前ニ販賣セラレタル清酒又ハ合成清酒ノ空樽ノ引取額ハ製造者ニ在リテハ(七)ノ金額ニ依リ其ノ他ノ者ニ在リテハ從前ノ價格ニ依ルモノトス

二十二 昭和十九年三月三十一日前ニ販賣セラレタル清酒又ハ合成清酒ノ空壺又ハ空樽ノ引取額ニ付テハ大藏大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ從前ノ價格ニ依ルコトヲ得ルモノトス

大藏省告示第百二十九號(官報號外)

昭和十八年四月大藏省告示第百三十八號(燒酎及味淋ノ販賣價格指定ノ件)中左ノ通改正シ

昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十九年三月三十一日

一乃至六、八乃至十二及十六ノ各項ヲ左ノ如ク改メ十四ノ項ヲ削リ七ノ項ヲ十四ノ項トシ十三ノ項ヲ十八ノ項トス

大藏大臣 石渡莊太郎

一 壹詰品(四ノ價格特配酒ヲ除ク)最高販賣價格			
(一)斗壹詰品(正味一斗詰一壹當)			
種類	成分規格	製造者最高販賣價格	都道府縣酒類販賣株式會社最高販賣價格
燒酎	アルコール 度以上	四一・七〇	四三・七〇
味淋	アルコール 度以上	五五・二〇	五七・三〇
燒酎	アルコール 度以上	五二・一〇	五四・二〇
味淋	アルコール 度以上	四一・七〇	四三・七〇
燒酎	アルコール 度以上	五五・二〇	五七・三〇
味淋	アルコール 度以上	五二・一〇	五四・二〇
(二)燒酎一斗五升壹詰品(正味一斗五升詰一壹當)			
(一)ノ斗壹詰品最高販賣價格ヲ基準トシ容量割合ニ依リ算出シタル價格ヨリ十五錢ヲ控除シタル價格			
(二)燒酎品(四ノ價格特配酒ヲ除ク)最高販賣價格			
(一)一升壹詰品(正味一升詰一本當)			
種類	成分規格	製造者最高販賣價格	都道府縣酒類販賣株式會社最高販賣價格
燒酎	アルコール 度以上	四四・二二	四六・〇〇
味淋	アルコール 度以上	五五・七七	五七・九〇
燒酎	アルコール 度以上	四二・二二	四四・〇〇
味淋	アルコール 度以上	五三・七七	五五・九〇
燒酎	アルコール 度以上	四二・二二	四四・〇〇
味淋	アルコール 度以上	五三・七七	五五・九〇
(二)六份燒酎品(正味六份詰一本當)			
種類	成分規格	製造者最高販賣價格	都道府縣酒類販賣株式會社最高販賣價格
燒酎	アルコール 度以上	一・五三	一・六〇
味淋	アルコール 度以上	一・九一	二・〇〇
燒酎	アルコール 度以上	一・五三	一・六〇
味淋	アルコール 度以上	一・九一	二・〇〇
小賣業者最高販賣價格			
燒酎	アルコール 度以上	一・五三	一・六〇
味淋	アルコール 度以上	一・九一	二・〇〇
燒酎	アルコール 度以上	一・五三	一・六〇
味淋	アルコール 度以上	一・九一	二・〇〇
高販賣價格			
燒酎	アルコール 度以上	一・五三	一・六〇
味淋	アルコール 度以上	一・九一	二・〇〇
燒酎	アルコール 度以上	一・五三	一・六〇
味淋	アルコール 度以上	一・九一	二・〇〇

三 中味最高販賣價格(四ノ價格特配酒ヲ除ク)			
種類	成分規格	製造者最高販賣價格	都道府縣酒類販賣株式會社最高販賣價格
燒酎	アルコール 度以上	四一・一七	四三・三三
味淋	アルコール 度以上	五二・二二	五四・三三
燒酎	アルコール 度以上	四一・一七	四三・三三
味淋	アルコール 度以上	五二・二二	五四・三三
小賣業者最高販賣價格			
燒酎	アルコール 度以上	四一・一七	四三・三三
味淋	アルコール 度以上	五二・二二	五四・三三
燒酎	アルコール 度以上	四一・一七	四三・三三
味淋	アルコール 度以上	五二・二二	五四・三三
高販賣價格			
燒酎	アルコール 度以上	四一・一七	四三・三三
味淋	アルコール 度以上	五二・二二	五四・三三
燒酎	アルコール 度以上	四一・一七	四三・三三
味淋	アルコール 度以上	五二・二二	五四・三三
四 價格特配酒(酒稅法第二十七條ノ三ノ規定ニ依リ酒稅ヲ輕減セラレタル燒酎ヲ謂フ)最高販賣價格			
種類	成分規格	製造者最高販賣價格	都道府縣酒類販賣株式會社最高販賣價格
燒酎	アルコール 度以上	四一・一七	四三・三三
味淋	アルコール 度以上	五二・二二	五四・三三
燒酎	アルコール 度以上	四一・一七	四三・三三
味淋	アルコール 度以上	五二・二二	五四・三三
小賣業者最高販賣價格			
燒酎	アルコール 度以上	四一・一七	四三・三三
味淋	アルコール 度以上	五二・二二	五四・三三
燒酎	アルコール 度以上	四一・一七	四三・三三
味淋	アルコール 度以上	五二・二二	五四・三三
高販賣價格			
燒酎	アルコール 度以上	四一・一七	四三・三三
味淋	アルコール 度以上	五二・二二	五四・三三
燒酎	アルコール 度以上	四一・一七	四三・三三
味淋	アルコール 度以上	五二・二二	五四・三三
五 酒場、料理店等(酒稅法施行規則第十條ニ規定スル酒類販賣業者ヲ謂フ)最高販賣價格(正味一合當)			
種類	成分規格	製造者最高販賣價格	都道府縣酒類販賣株式會社最高販賣價格
燒酎	アルコール 度以上	一・五三	一・六〇
味淋	アルコール 度以上	一・九一	二・〇〇
燒酎	アルコール 度以上	一・五三	一・六〇
味淋	アルコール 度以上	一・九一	二・〇〇
小賣業者最高販賣價格			
燒酎	アルコール 度以上	一・五三	一・六〇
味淋	アルコール 度以上	一・九一	二・〇〇
燒酎	アルコール 度以上	一・五三	一・六〇
味淋	アルコール 度以上	一・九一	二・〇〇
高販賣價格			
燒酎	アルコール 度以上	一・五三	一・六〇
味淋	アルコール 度以上	一・九一	二・〇〇
燒酎	アルコール 度以上	一・五三	一・六〇
味淋	アルコール 度以上	一・九一	二・〇〇

種類	成分	規格	最高販賣價格
燒酎	アルコール分	ボーム比重計指度	六五
味淋本直シ	二五	二五以上	七五
六 沖繩縣産燒酎特別販賣價格			
(一) 沖繩縣ニ於テ製造シタル燒酎ヲ同縣内ニ於テ販賣スル場合ノ最高販賣價格ハ一乃至五ノ規定ニ拘ラズ左ノ價格ニ依ルモノトス			
(イ) 成分規格アルコール分二十五度以上ノモノ	(ロ) ノ價格特配酒ヲ除ク		
區分	單位	製造者最高販賣價格	都道府縣酒類販賣株式會社最高販賣價格
一斗壺詰品	正味一斗詰一壺當	四〇・五〇	四二・五〇
一升壺詰品	正味一升詰一本當	四・三〇	四・四八
六磅壺詰品	正味六磅詰一本當	一・四九	一・五六
正味一升ヲ超ユル數量ノ中味販賣	正味一升當	四・〇五	四・二五
正味一升以下ノ中味販賣	正味一合當	—	—
(ロ) 成分規格アルコール分二十五度以上ノ價格特配酒(酒稅法施行規則第十八條第一項ノ規定ニ依リ販賣ノ指定ヲ受ケタル燒酎ヲ含ム)			
區分	單位	製造者最高販賣價格	都道府縣酒類販賣株式會社及小賣業者最高販賣價格
一斗壺詰品	正味一斗詰一壺當	二七・五〇	三三・三〇
一升壺詰品	正味一升詰一本當	二・七〇	三・五八
六磅壺詰品	正味六磅詰一本當	一・〇六	一・二八

正味一升ヲ超ユル數量ノ中味販賣	正味一升當	二・七五	三・五三
中味販賣	正味一合當	—	—
(ハ) 内容量八升以上一斗六升未満ノモノノ壺詰品最高販賣價格ハ一斗壺詰品最高販賣價格ヲ基準トシ容量割合ニ依リ算出シタル價格ニ依ルモノトス			
(ニ) ノ乃至(ハ) ノ壺詰品又ハ燒酎品ノ價格ハ十七ニ定ムル引渡場所ニ於テ當該容器ト同種同等ノ空壺又ハ空壺ト引換ニ販賣スル場合ニ於ケル價格トシ其ノ他ノ場合ニ於テモ仍右價格ニ依ルモノトス但シ十七ニ定ムル引渡場所ニ於テ左ノ金額ヲ以テ同種同等ノ空壺又ハ空壺ヲ引取ルコトヲ條件トスル場合ニ限り左ノ金額ヲ加算スルコトヲ得ルモノトス			
區分	單位	金額(一壺又ハ一本當)	
内容量八升乃至一斗六升ノ壺	一升壺	一・〇〇	
六磅壺	—	一・三五	
(二) 泡盛(沖繩縣産米製燒酎ヲ謂フ)ヲ沖繩縣ヨリ同縣外ニ移出スル場合ノ價格及沖繩縣以外ノ都道府縣ニ於テ販賣スル場合ノ價格ハ一乃至五ノ規定ニ拘ラズ左ノ價格ニ依ルモノトス			
(イ) 一斗壺詰品及中味販賣價格			
區分	單位	成分規格	移出港船乘渡最高販賣價格
一斗壺詰品	正味一斗詰一壺當	アルコール分二十五度以上	四四・五〇
正味一升ヲ超ユル數量ノ中味販賣	正味一升當	—	—
正味一升以下ノ中味販賣	正味一合當	—	—
			都道府縣酒類販賣株式會社最高販賣價格
			小賣業者最高販賣價格
			酒場、料理店等最高販賣價格

(ロ) 内容量入升以上一斗六升未満モノノ  
 壹詰品最高販賣價格(ハイ)ノ一斗壹詰品  
 最高販賣價格ヨリ一圓ヲ控除シタル價  
 格ヲ基準トシ容量割合ニ依リ算出シタ  
 ル價格ニ一圓ヲ加算シタル價格トス  
 (ハ) 及(ロ) 壹詰品ノ價格ハ壹附ノ價格ト  
 ス

(ニ) 移出港船乘渡價格トハ、泡盛ノ内地ノ沖  
 島ニ移出スル場合ニ於ケル那覇港、瀧  
 水港又ハ石垣港ノ船乘渡價格ニシテ酒  
 稅法第八十四條第三項ノ出港稅込ノ價  
 格トス

七 特殊販賣價格  
 (一) 酒粕 麥又ハ米ヲ原料トシテ製造シタル  
 燒酎(特殊燒酎)ニ付テハ一乃至五又ハ六  
 ノ一ノ價格ニ一斗ニ付一圓五十錢以內ヲ  
 加算スルコトヲ得ルモノトス但シ酒粕、  
 麥又ハ米ヲ原料トシテ製造シタル燒酎ト  
 其ノ他ノ燒酎(普通燒酎)トヲ混和セル燒  
 酎ニ付テハ之ヲ加算スルコトヲ得ザルモ  
 ノトス

(二) 連続式蒸餾機以外ノ蒸餾機ニ依リ製造シ  
 タル燒酎ノ原料トシテ製造シタル味淋酒  
 式味淋ニ付テハ一乃至三又ハ五ノ價格ニ  
 一斗ニ付一圓五十錢以內ヲ加算スルコト  
 ヲ得ルモノトス

(三) 特別ノ容器詰品ニシテ大藏大臣ノ承認ヲ  
 受ケ其ノ旨ノ表示ヲ爲シタルトキハ(一) 二  
 又ハ八ノ壹詰品又ハ、燒詰品ノ價格ニ實費  
 ノ範圍內ニ於テ當該容器代ノ差額ヲ加算  
 スルコトヲ得ルモノトス

(四) 昭和十九年三月大藏省告示第百二十七號ニ  
 掲グル味淋ノ最高販賣價格ハ一乃至三ノ  
 價格ニ一升ニ付製造者最高販賣價格ニ在  
 リテハ四圓六十三錢ヲ、都道府縣酒類販賣  
 株式會社及小賣業者ノ最高販賣價格ニ在  
 リテハ四圓六十五錢ヲ加算シタル價格ニ  
 依ルモノトス但シ(二)ノ加算ハ之ヲ爲サザ  
 ルモノトス

八 燒詰品ニシテ大藏大臣ノ承認ヲ受ケタル  
 容量詰モノノ最高販賣價格ハ其ノ容量入  
 份以上ナルトキハ前各項ニ依リ一升燒詰品  
 ノ最高販賣價格ヲ基準トシ容量割合ニ依リ  
 算出シタル價格其ノ容量ハ八割ニ滿タザル  
 トキハ前各項ニ依リ六割燒詰品ノ最高販賣  
 價格ヲ基準トシ容量割合ニ依リ算出シタル  
 價格トス

九 酒稅ノ免除又ハ輕減ヲ受ケタル燒酎又ハ  
 味淋(四ノ價格特配酒、酒稅法第二十七條ノ  
 四ノ酒類及六ノ一)ノ沖繩縣內 特別販賣價格  
 ノ酒ヲ除クヲ販賣スル場合ノ價格ハ前各項  
 ノ價格ヨリ當該免除又ハ輕減ノ酒稅相當額  
 ヲ控除シタル價格ニ依ルモノトス  
 十 前各項(六ノ項ヲ除ク)ニ於ケル壹詰品又  
 ハ燒詰品ノ價格ハ十七ニ定ムル引渡場所ニ

於テ當該容器ト同種同等ノ空壺又ハ空壺ト  
 引換ニ販賣スル場合ニ於ケル價格トシ其ノ  
 他ノ場合ニ於テハ右價格ニ依ルモノトス  
 但シ十七ニ定ムル引渡場所ニ於テ左ノ金額  
 ヲ以テ同種同等ノ空壺又ハ空壺ヲ引取ルコ  
 トヲ條件トスル場合ニ限リ前各項ノ價格ニ  
 左ノ金額ヲ加算スルコトヲ得ルモノトス  
 區 分 金額(一壺又ハ一本當)

一斗五升壺 二・五〇  
 一斗壺 二・〇〇  
 一升以上ノ壺 二・〇〇  
 七二切以上ノ壺 一・三五  
 七二切未満ノ壺 一・一〇  
 十二 大日本酒類販賣株式會社ハ大藏大臣ノ  
 承認ヲ受ケタルトキハ製造者最高販賣價格  
 ニ對シ一石ニ付十圓ノ範圍內ニ於テ増加又  
 ハ減少シタル價格ニ依リ製造者ヨリ買受ク  
 ルコトヲ得ルモノトス

十三 大日本酒類販賣株式會社及日本酒類輸  
 移出株式會社ノ販賣價格ハ、都道府縣酒類販  
 賣株式會社最高販賣價格ノ範圍內ニ於テ大  
 藏大臣ノ承認ヲ受ケタル價格ニ依ルモノト  
 ス

十五ノ項中「比重一度迄ヲ下ル毎ニ當該販  
 賣價格ノ十分ノ一」ノ下ニ「(味淋本直シニ  
 在リテハ十分ノ四)」ヲ加ヘ同項ヲ二十ノ項  
 トス  
 十五 都道府縣酒類販賣株式會社以外ノ卸賣  
 業者ノ販賣價格ハ、都道府縣酒類販賣株式會  
 社最高販賣價格ニ依ルモノトス

十六 五ノ業者ニ販賣スル場合ノ價格ハ小賣  
 業者最高販賣價格ニ依ルモノトス但シ製造  
 者又ハ卸賣業者ガ販賣スル場合ハ卸賣業者  
 最高販賣價格ニ依ルモノトス  
 十七 製造者最高販賣價格ハ、製造場ノ口渡價  
 格トシ、都道府縣酒類販賣株式會社及小賣業  
 者ノ最高販賣價格ハ賣主店先渡價格トス  
 都道府縣酒類販賣株式會社ガ其ノ營業所ヨ  
 リ二軒ヲ超ニル場所ニ販賣場ヲ有スル小賣  
 業者ニ販賣スル場合ニ於ケル價格ハ前各項  
 ノ價格ヨリ運送費ノ一部ニ相當スル金額ニ  
 シテ財務局長ノ承認ヲ受ケタルモノヲ控除  
 シタル價格ニ依ルモノトス  
 十九 燒酎又ハ味淋ノ最低販賣價格ハ前各項  
 ノ最高販賣價格(六ノ一)ノ(七)ノ(一)及(二)  
 十並ニ十二ノ各項ニ依リ加算額ヲ除クノ  
 百分ノ八十二相當スル金額トス  
 二十一 昭和十九年三月三十一日以前ニ販賣セ  
 ラレタル燒酎又ハ味淋ノ空壺又ハ空壺ノ引  
 取額ニ付テハ大藏大臣ノ承認ヲ受ケタルト  
 キハ從前ノ價格ニ依ルコトヲ得ルモノトス

一乃至五ノ項ヲ左ノ如ク改ム  
 一 燒詰品(三ノ價格特配酒ヲ除ク)最高販賣價格  
 區 分 單位 製造者最高  
 販賣價格  
 麥酒大壺詰品 四打當 五八・四四  
 麥酒小壺詰品 四打當 三〇・四八  
 二 立型燒詰品 一本當 三・七五  
 二 樽詰品(三ノ價格特配酒ヲ除ク)最高販賣價格  
 區 分 單位 製造者最高  
 販賣價格  
 麥酒大壺詰品 四打當 四二・一一  
 麥酒小壺詰品 四打當 四二・一一  
 三 價格特配酒(酒稅法第二十七條ノ三ノ規定ニ依リ酒稅ヲ輕減セラレタル麥酒ヲ謂フ)最高販賣  
 價格 區 分 單位 製造者最高  
 販賣價格  
 麥酒大壺詰品 四打當 四二・一一  
 麥酒小壺詰品 四打當 四二・一一

五 酒稅ノ免除又ハ輕減ヲ受ケタル麥酒(三ノ  
 價格特配酒ヲ除ク)ヲ販賣スル場合ノ價格ハ  
 一又ハ二ノ價格ヨリ當該免除又ハ輕減ノ酒稅  
 相當額ヲ控除シタル價格ニ依ルモノトス  
 九及十ノ項ヲ左ノ如ク改ム  
 九 一及三ノ燒詰品最高販賣價格ハ十二定ム  
 ル引渡場所ニ於テ當該容器ト同種同等ノ空  
 壺ト引換ニ販賣スル場合ニ於ケル價格トシ  
 其ノ他ノ場合ニ於テモ仍右價格ニ依ルモノ  
 トス但シ十三定ムル引渡場所ニ於テ左ノ金  
 額ヲ以テ同種同等ノ空壺ヲ引取ルコトヲ條

大藏省告示第百三十號(官報號外)

昭和十八年三月大藏省告示第百三十九號(麥  
 酒ノ販賣價格指定ノ件)中左ノ通改正シ昭  
 和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 昭和十九年三月三十一日

大藏大臣 石渡莊太郎

第二號様式

外國爲替管理法施行規則第百條ニ基テ特別報告書  
對滿投資ニ關スル委託支拂豫定報告書

年 月 日提出  
提出者ノ住所  
氏名又ハ商號

大藏大臣 殿

委託者ノ住所  
氏名又ハ商號  
支拂金額  
支拂委託ノ方法  
支拂ノ相手方ノ住所  
氏名又ハ商號  
支拂ノ豫定期  
支拂ノ目的及之ヲ必要トスル事由

其ノ他ノ事項

本件支拂資金ノ調達方法  
株式第一回拂込ノ場合ハ會社經理統制令トノ關係  
本件支拂資金ノ内滿洲へ送金ヲ要スル金額豫定期及  
爲替取組銀行

(參考) 第一號様式ノ(參考)ニ同ジ

第三號様式

外國爲替管理法施行規則第百條ニ基テ特別報告書  
對滿投資ニ關スル外國居住者ニ對スル貸付豫定報告書

年 月 日提出  
提出者ノ住所  
氏名又ハ商號

大藏大臣 殿

外國居住者ノ住所  
氏名又ハ商號  
貸付ノ種別及金額  
擔保又ハ保險關係  
貸付金ノ引渡先ノ住所  
氏名又ハ商號  
回收ノ見込時期及方法  
貸付ノ豫定期  
貸付ノ目的及之ヲ必要トスル事由

其ノ他ノ事項

本件貸付金ノ調達方法  
銀行等ノ貸付ニアリテハ資金運用令トノ關係  
本貸付金ノ内滿洲へ送金ヲ要スル金額、豫定期及爲  
替取組銀行

(參考) 第一號様式ノ(參考)ニ同ジ

◎大藏省告示第二百七號

昭和十八年四月大藏省告示第百三十七號  
(清酒及合成清酒ノ販賣價格指定ノ件)  
中左ノ通改正ス

昭和十九年五月二日  
大藏大臣 石渡莊太郎

二ノ八ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

(九)北海道内ニ於テ樽詰セラレタル清  
酒及合成清酒(内地ノ北海道以外  
ノ地域ニ移出セララルモノヲ除  
ク)ニ付テハ(一)乃至(四)及(七)ノ金額  
ニ拘ラズ(一)乃至(四)及(七)ノ金額ニ一  
樽ニ付四斗樽及三斗八升樽ニ在リ  
テハ九十錢、二斗樽ニ在リテハ二  
十錢、一斗樽ニ在リテハ十五錢ヲ  
加算シタル金額ニ依ルモノトス

十三ノ項中「圓ヲ控除シタル價格ヲ  
五十錢ヲ控除シタル價格(樽詰品又  
ハ露詰品ニシテ端數詰ノモノニ在リテ  
ハ二ノ一)ノ四斗樽詰品最高販賣價格ヨ  
リ三十一圓ヲ控除シタル價格ヲ基準ト  
シ容量割合ニ依リ算出シタル價格ニ其  
ノ容積四斗樽ナルトキハ十一圓、三斗  
八升樽ナルトキハ十圓九十錢、二斗樽  
ナルトキハ六圓五十錢、一斗樽ナルト  
キハ三圓八十錢、一斗壺ナルトキハ二  
圓ヲ加算シタル價格)ニ改ム

◎大藏省告示第二百八號

昭和十九年三月大藏省告示第百二十五號  
(清酒、合成清酒、濁酒、白酒、味淋、果實  
酒及雜酒ノアルコール分指定ノ件)五  
ノ項中同十一度ヲ(同十三度)ニ改ム

昭和十九年五月二日  
大藏大臣 石渡莊太郎

◎大藏省告示第二百九號

昭和十八年四月大藏省告示第百三十八號  
(燒酎及味淋ノ販賣價格指定ノ件)中左  
ノ通改正ス

昭和十九年五月二日  
大藏大臣 石渡莊太郎

一ノ項ノ(一)、二ノ項ノ(一)及(二)並ニ三ノ  
項中アルコール分欄ノ(一)ニ「二」ヲ「三」  
ニ改ム

二十ノ項中「當該成分規格ノアルコー  
ル分」ノ下ニ「味淋本味淋ニ在リテハ  
昭和十九年七月三十一日迄ハ當該成分  
規格ノアルコール分ヨリアルコール分  
二度ヲ控除シタルアルコール分)」ヲ  
加フ

◎大藏省告示第二百十號  
金融統制團體令第四十一條第五項ノ規  
定ニ依リ昭和十九年五月一日普通銀行  
統制會ノ理事任命ノ件左ノ通認可シ  
タリ  
昭和十九年五月二日  
大藏大臣 石渡莊太郎  
理事 一萬田尙登

◎大藏省告示第二百十一號

金融統制團體令第四十一條第五項ノ規  
定ニ依リ昭和十九年五月一日信託統制  
會ノ理事任命ノ件左ノ通認可シタリ

昭和十九年五月二日  
大藏大臣 石渡莊太郎

◎大藏省告示第二百十二號

普通銀行統制會理事岡田才一ハ昭和十  
九年四月二十六日辭任セル旨同會ヨリ  
届出アリタリ

昭和十九年五月二日  
大藏大臣 石渡莊太郎

◎大藏省告示第二百十三號  
信託統制會理事岡田才一ハ昭和十九年  
四月二十二日辭任セル旨同會ヨリ届出  
アリタリ

昭和十九年五月二日  
大藏大臣 石渡莊太郎

◎大藏省告示第二百十四號  
昭和十六年大藏省令第十號第七十二條  
第三項ニ基キ株式會社神戶銀行ヨリ同  
行左記店舗ニ於ケル外國爲替業務ヲ昭  
和十九年四月八日限り廢止スベキ旨届  
出アリタリ  
昭和十九年五月二日  
大藏大臣 石渡莊太郎  
名 稱 兵庫縣神戶市神戶區  
株式會社神戶銀 三宮町二丁目十八番  
行三宮支店 地ノ一

●大藏省告示第百三十二號(官報號外)

昭和十八年大藏省告示第百八十七號酒類ノ表示様式等指定ノ件)中左ノ通改正シ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十九年三月三十一日

大藏大臣 石渡莊太郎

- 第一中「一 清酒、合成清酒及味淋」ヲ「一 清酒及合成清酒」ニ改ム
- 第一ノ一ノ二ノ項中「合成清酒又ハ味淋」ヲ「又ハ合成清酒」ニ改ム
- 第一ノ一ノ三ノ項中「酒類庫出税」ヲ「酒税」ニ改メ同項ニ左ノ後段ヲ加フ
- 酒税法施行規則第十八條第一項ノ規定ニ依リ販賣ノ指定ヲ受ケ販賣スル酒類ノ表示ニ付亦同シ
- 第一ノ一ノ四ノ項ヲ削ル
- 第一ノ一ノ五ノ項中「十六ノ二」ヲ「十三」ニ改メ同項ヲ第一ノ一ノ四ノ項トス
- 第一ノ一ノ六ノ項ヲ同五ノ項トス
- 第一ノ二ノ一ノ項中「業務用トシテ販賣スルモノ(樽詰品ヲ除ク)ニ付テハ小賣業者最高販賣價格及◎ノ記號ヲ表示」ヲ削ル

- 第一ノ二ノ二ノ項ニ左ノ後段ヲ加フ
- 酒税法施行規則第十八條第一項ノ規定ニ依リ販賣ノ指定ヲ受ケ販賣スル酒類ノ表示ニ付亦同シ
- 第一中「三 焼酎、濁酒及白酒」ヲ「三 焼酎、味淋、濁酒及白酒」ニ改ム
- 第一ノ三ノ二ノ項中「普通焼酎又ハ」及「但シ泡盛壹詰品ニ在リテハ普通焼酎又ハ特殊焼酎」ヲ表示ニ代ヘ泡盛ヲ表示ヲ爲シ且「ヲ削リ「特殊焼酎」ノ下ニ「又ハ泡盛壹詰品ニ付テハ特殊焼酎又ハ泡盛」ヲ「爲スモノトス」ノ下ニ「尚泡盛壹詰品ニ在リテハ」ヲ加フ
- 第一ノ三ノ三ノ項ニ左ノ後段ヲ加フ
- 酒税法施行規則第十八條第一項ノ規定ニ依リ販賣ノ指定ヲ受ケ販賣スル酒類ノ表示ニ付亦同シ
- 第一ノ三ノ四ノ項ヲ同六ノ項トシ同項ノ前ニ左ノ二項ヲ加フ
- (四)昭和十九年大藏省告示第百二十七號ノ味淋ヲ表示ニ付テハ第一ノ一ノ二ノ例ニ依ル
- (五)味淋ニ在リテハ第一ノ三ノ一ノ項ニ依ルノ外舊式味淋又ハ本直シニ付テハ舊式味淋又ハ本直シノ表示ヲ爲スモノトス

- 第一ノ四ノ二ノ項中「製造者ノ組織スル組合」ヲ「日本雜酒造組合又ハ日本果實酒造組合」ニ改ム
- 第二ノ二ノ中「アリテ大藏大臣」ヲ「ニ因リ大藏大臣又ハ財務局長」ニ「表示ヲ爲ス」ヲ「表示ニ依ル」ニ改ム
- 第二ノ三ヲ左ノ如ク改ム
- 三 昭和十九年六月三十日迄ハ第一ノ各項ニ拘ラスニ依ル
- (一)昭和十九年三月三十一日前ノ小賣業者最高販賣價格又ハ成分規格ノ表示アルモノニ付改正價格又ハ規格ヲ告知シテ販賣スル場合ニ於テハ當該改正ニ係ル小賣業者最高販賣價格又ハ成分規格ノ表示ヲ省略スルコトヲ得ルコト
- (二)通常ノ表示ヲ爲シタル酒類ニシテ酒税法施行規則第十八條第一項ノ規定ニ依リ販賣ノ指定ヲ受ケ販賣スルモノニ付テハ當該小賣業者最高販賣價格又ハ價格特配ノ表示ヲ省略スルコトヲ得ルコト
- (三)麥酒ニ付テハ小賣業者最高販賣價格價格特配又ハ◎ノ記號ヲ表示ヲ省略スルコトヲ得ルコト

●大藏省告示第百三十三號(官報號外)  
砂糖消費稅法施行規則第十條ノ二ノ規定ニ依リ左ノ通指定シ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十九年三月三十一日  
大藏大臣 石渡莊太郎

左ニ掲グル包裝並ニ一包裝毎ノ容量及取引斤數ニ依ル砂糖ノ一包裝毎ノ斤數ハ各其ノ取引斤數ニ左ニ掲グル斤數ヲ加ヘタル斤數トス  
一 臺灣ヨリ移入シタル砂糖

包裝ノ種類	包裝ノ際ニ於ケル一包裝毎ノ容量	一包裝毎ノ取引斤數	同上ニ加フベキ斤數
麻 袋	一五・一五〇以下	一五〇〇〇	一・三三
笈	一〇一・〇〇〇以下	一〇〇〇〇	〇・六三
木綿 袋	五〇・五〇〇以下	五〇〇〇〇	〇・三八
紙 袋	五〇・五〇〇以下	五〇〇〇〇	〇・二九

二 沖繩縣ヨリ移入シタル砂糖

包裝ノ種類	包裝ノ際ニ於ケル一包裝毎ノ容量	一包裝毎ノ取引斤數	同上ニ加フベキ斤數
麻 袋	一五・一五〇以下	一五〇〇〇	一・三三
笈	一〇一・〇〇〇以下	一〇〇〇〇	〇・六三
木綿 袋	五〇・五〇〇以下	五〇〇〇〇	〇・四一
紙 袋	五〇・五〇〇以下	五〇〇〇〇	〇・三五

●大藏省告示第百三十四號(官報號外)  
廣告稅法施行規則第四條第四號及第五條第六號ノ規定ニ依リ左ノ公共團體及結社ヲ指定ス

- 昭和十七年大藏省告示第百四十九號ハ之ヲ廢止ス
- 本告示ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 昭和十九年三月三十一日
- 大藏大臣 石渡莊太郎
- 一 重要産業團體令ニ依リ設立セラレタル統制會
- 二 金融統制團體令ニ依リ設立セラレタル統制會
- 三 大政翼贊會
- 四 大日本翼贊壯年團
- 五 大日本婦人會
- 六 大日本青少年團
- 七 大日本産業報國會及都道府縣產業報國會
- 八 大日本勞務報國會及都道府縣勞務報國會
- (參照)
- 昭和十七年四月大藏省告示第百四十九號ハ廣告稅法施行規則第五條第六號ノ規定ニ依リ結社指定ノ件ナリ
- 大藏省告示第百三十五號(官報號外)  
骨牌稅法施行規則第四條ノ二ノ規定ニ依リ左ノ骨牌ヲ指定シ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 昭和十九年三月三十一日
- 大藏大臣 石渡莊太郎
- 一 四色牌
- 二 白牌
- 三 紙製ドミノ

●大藏省告示第百三十六號(官報號外)  
印紙稅法施行規則第五條第二項ノ規定ニ依ル帳簿ノ種類左ノ通定メ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十九年三月三十一日

大藏大臣 石渡莊太郎